

学 習 要 項

第 1 学年

2 0 1 6



東京女子医科大学

看護学部

目 次

東京女子医科大学 建学の精神、大学の理念
看護学部の教育理念、教育目的、教育目標、第1学年教育目標
授業科目および単位数
保健師国家試験受験資格に関する科目および単位数
養護教諭一種免許課程に関する科目および単位数
アクティブラーニングについて
学生生活において接する情報の取り扱いに関する指針
学則第11条関係 試験に関する規程

科目別到達目標・講義スケジュール

人間の本質を問う

生物としての人間
栄養代謝学
人体の構造と機能
人間発達論
生体の化学
人間援助論 I
哲学

生活している人間の環境

生活科学論
史学

健康障害と生活の調整

病態学・概論
人間工学

働きかけの基本 看護活動

看護学・概論
基礎看護学・各論 I (共通基本技術論)
基礎看護学・各論 II (生活援助論)
基礎看護学・各論 III (診療に伴う援助論)
基礎看護学・各論 IV (看護過程論)
基礎看護学実習 I
基礎看護学実習 II

人間性を育む

フィットネスの理論と実技
英語 I - 1 : A
英語 I - 1 : B, C
ドイツ語 I

日本語学……………
美術……………
音楽……………

各専門領域への発展

情報科学演習 I ……………
キャリア発達論 I ……………
国際看護コミュニケーション I ……………

第1学年授業担当教員……………
カレンダー

東京女子医科大学

I. 建学の精神

東京女子医科大学は、1900年（明治33年）に創立された東京女醫學校を母体として設立された。東京女子医科大学の創立者である吉岡彌生は、1952年（昭和27年）新制大学設立に際し、東京女醫學校創立の主意をもって建学の精神とした。その主旨は、高い知識・技能と病者を癒す心を持った医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出することであった。新制大学設立時の学則には「医学の蘊奥を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する。」と記されている。

建学の精神に基づく医療人育成の場として、1998年（平成10年）度より新たに看護学部が新設された。医療を行うものが学ぶ学府として、現在の東京女子医科大学の使命は、最良の医療を実践する知識・技能を修め高い人格を陶冶した医療人および医学・看護学研究者を育成する教育を行うことである。大学建学の精神に基づき、大学教育では社会に貢献する女性の医療人を育成する。

II. 大学の理念

東京女子医科大学の使命を達成するための教育・研究・診療の基盤となる理念は、「至誠と愛」である。至誠は、「常住不断私が患者に接するときの根本的な心構えを短い二つの文字のなかに言い現したもの（吉岡彌生傳）」という創立者吉岡彌生の座右の銘であり、「きわめて誠実であること」「慈しむ心（愛）」は教育・研究・診療の総ての場において求められる。大学およびそこに学び働くものは本学の理念である「至誠と愛」に従って活動しなくてはならない。

看護学部の教育理念

本学部は「女性の社会的地位の向上と経済的自立を目指すと共に、至誠と愛の精神に基づき医療を行う人材を育成する」という創立者吉岡彌生の趣旨を受けつぎ、これを教育の基本理念とする。

本学部における教育は学生が自ら学び成長しようとする向上心を側面から支援することであると考えます。それは、学生一人一人の個性を尊重する教師と、自ら学ぼうとする学生との真剣な相互作用の過程において創られるものである。

看護学部の教育目的

本学部は、建学の精神に基づき、変動する社会情勢の中で看護の役割を認識し、責任を自主的に果たし得る看護実践者を育成する。すなわち、いかなる状況下においても、医療倫理を遵守し、至誠と愛の精神に基づいて行動できる看護職者としての基礎を確立することを目的とするものである。さらに、本学部の教育は、看護の専門性を追求し、看護学の発展に寄与できるための基礎を養うものである。

看護学部の教育目標

看護はあらゆる健康のレベルにある人々を対象とし、それらの人々の健康レベルの向上を目指して援助を行うものであり、この援助活動は、人々の生活を尊重し、人間理解に根ざした関係を基盤として、継続的に行われるものである。看護は人間としてさげられない「生・老・病・死」とかかわりを持ちながら、対象者との密接な人間関係を通して行われていくものである。したがって、看護者には豊かな人間性と科学的思考に支えられた創造的・主体的行動が求められる。

本学部は以下の教育目標を掲げる。

- 1) 豊かな人間性を養い、生活者としての人間を理解する基礎能力を養う。
- 2) 看護実践に必要な科学的思考および看護の基本技術を身につけ、人間関係を基盤として、健康問題を解決する能力を養う。
- 3) 社会情勢の変化に応じて、保健・医療・福祉チームの中で主体的かつ協調的に看護の役割を果たすとともに、現状を変革する基礎能力を養う。
- 4) 研究の基礎能力を養う。
- 5) 専門職者として自己の能力を評価し、自己成長のできる基盤を養う。
- 6) 国際的な視野に立って活動できる基礎能力を養う。

第1学年教育目標

- 1) 人間生活と健康との関りを、地域住民の生活や自身の生活を通して理解する。
- 2) 人間理解の基礎となる知識、および看護活動の基礎となる知識・技術を学ぶ。
- 3) 自主性を養い、主体的な学習態度の基礎を確立する。
- 4) 感性を磨き、人間関係の基本を学ぶ。

看護学部の授業科目および単位数

開講区分	授 業 科 目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数	
		必修	選択		1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人間の 本質を問う	心 理 学	1		10			1							1
	生物としての人間	2		20	2									2
	栄 養 代 謝 学	2		28	1	1								2
	人体の構造と機能	4		56	2	2								4
	人 間 発 達 論	1		10	1									1
	人 間 関 係 論	1		18				1						1
	生 体 の 化 学	1		10		1								1
	人 間 援 助 論 I	1		18	1									1
	医療における倫理学	2		20				2						2
	人 間 援 助 論 II		1	10								1		3
	哲 学		1	10	1									
	女 性 論		1	10								1		
	論 理 学		1	10			1							
	計	15	4	230	8	4	2	3	0	0	2	0		18
生活している人間の環境	生 体 防 御 機 構	1		10			1							1
	感 染 看 護	1		10			1							1
	疫 学	1		18								1		1
	医療行政・関係法規	2		28							1	1		2
	社 会 福 祉 学	1		10			1							1
	家 族 関 係 論	1		10				1						1
	公 衆 衛 生 学(養選)(保選)		2	20						2				3
	文 化 人 類 学		1	10							1			
	社 会 と 人 間		1	10			1							
	生 活 科 学 論		1	10	1									
	人 間 生 活 と 法		1	10									1	
	人 間 生 活 と 経 済 史		1	10	1									
計	7	8	166	2	0	2	3	1	2	2	3		10	
健康障害と生活の調整	健 康 科 学 論	1		10				1						1
	薬 理 学	2		28			1	1						2
	病 態 学 ・ 概 論	1		10		1								1
	病態学・各論I (内科系)	4		56			2	2						4
	病態学・各論II (外科系)	2		28			1	1						2
	病態学・各論III (小児)	1		10				1						1
	病態学・各論IV (母性)	1		10				1						1
	病態学・各論V (老年)	1		10				1						1
	病態学・各論VI (精神)	1		10				1						1
	病態学・特論	1		10									1	1
	人 間 工 学	1		10	1									1
	保 健 医 療 行 動 科 学	1		18								1		1
	リハビリテーション	1		10				1						1
	医 学 特 論		1	10									1	0
計	18	1	230	1	1	4	9	1	0	0	3		18	

開講区分	授 業 科 目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数	
		必修	選択		1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
働きかけの基本 看護活動	看護学・概論	2		20	2									2
	基礎看護学・各論Ⅰ (共通基本技術論)	1		18	1									1
	基礎看護学・各論Ⅱ (生活援助論)	2		36	1	1								2
	基礎看護学・各論Ⅲ (診療に伴う援助論)	1		18		1								1
	基礎看護学・各論Ⅳ (看護過程論)	1		18		1								1
	成人看護学・概論	1		10			1							1
	成人看護学・各論Ⅰ (健康各期の看護)	2		28			2							2
	成人看護学・各論Ⅱ (専門領域の探求)	2		28				2						2
	フィジカルアセスメント	1		18			1							1
	老年看護学・概論	1		10				1						1
	老年看護学・各論	2		28					2					2
	小児看護学・概論	1		10				1						1
	小児看護学・各論	2		28					2					2
	母性看護学・概論	1		10				1						1
	母性看護学・各論	2		28					2					2
	地域看護学・概論	1		10					1					1
	地域看護学・各論	2		28					2					2
	精神看護学・概論	1		10				1						1
	精神看護学・各論	2		28						2				2
	在宅看護論	2		20					2					2
	基礎看護学実習Ⅰ	1		30	1									1
	基礎看護学実習Ⅱ	2		60		2								2
	成人看護学実習Ⅰ	3		90				3						3
	成人看護学実習Ⅱ	3		90						3				3
	老年看護学実習	2		60						2				2
	小児看護学実習	2		60						2				2
	母性看護学実習	2		60						2				2
	地域看護学実習Ⅰ	2		60						2				2
	地域看護学実習Ⅱ(保選)		4	120								4		0
	精神看護学実習	2		60								2		2
	統合実習Ⅰ	2		60								2		2
	統合実習Ⅱ	2		60								2		2
健康教育学(養選)(保選)		1	18						1				0	
公衆衛生看護活動展開論(保選)		2	28						2				0	
公衆衛生看護管理論(保選)		1	10						1				0	
コミュニケーションの理論と実際(養選)		1	18								1		0	
計	53	9	1288	5	5	4	9	11	17	11	0		53	

開講区分	授 業 科 目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数	
		必修	選択		1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人間性を育む	フィットネスの理論と実技	2		28	1	1								2
	英 語 I - 1	2		28	1	1								2
	英 語 I - 2	2		28			1	1						2
	英 語 II	2		28					1	1				2
	英 語 III		2	28								1	1	4
	ド イ ツ 語 I		2	28	1	1								
	ド イ ツ 語 II		2	28			1	1						
	韓 国 語		2	28			1	1						
	中 国 語		2	28					1	1				3
	日 本 語 学		2	28	1	1								
	美 術		2	28	1	1								
	音 楽		2	28	1	1								
	パフォーマンス芸術論		1	18									1	
国 際 関 係 論		1	10									1		
計	8	18	364	6	6	3	3	2	2	1	3		15	
各専門領域への発展	保健医療統計学	1		18				1						1
	情報科学演習Ⅰ	1		18	1									1
	情報科学演習Ⅱ	1		18				1						1
	リエゾン精神看護	1		10								1		1
	研究 方 法 論	1		18					1					1
	キャリア発達論Ⅰ	2		28	2									2
	キャリア発達論Ⅱ	1		18			1							1
	キャリア発達論Ⅲ	1		18					1					1
	キャリア発達論Ⅳ	1		18							1			1
	卒 業 論 文	1		18							1			1
	国際看護コミュニケーションⅠ☆		2	28	(1)	(1)	1	1	(1)	(1)	(1)	(1)		0
	国際看護コミュニケーションⅡ☆		2	28			(1)	(1)	1	1				0
	国際看護コミュニケーションⅢ☆		2	28			(1)	(1)	(1)	(1)	1	1		0
国 際 看 護		2	20							1	1		0	
計	11	8	286	2	0	2	3	3	1	4	3		11	
合 計	112	48	2564	25	16	17	30	18	22	20	12		125	
					41		47		40		32			

(養選)は養護教諭一種免許取得のための選択必修科目。

(保選)は保健師国家試験受験資格を得るための選択必修科目。

ただし、健康教育学、公衆衛生学については3年次選択科目として全員が履修可能。

☆ 印については、海外研修参加年次に履修および単位の認定を行う。

卒業に要する単位数

開 講 区 分	卒業に要する単位数		
	必修	選択	合計
人 間 の 本 質 を 問 う	15	3	18
生 活 し て い る 人 間 の 環 境	7	3	10
健 康 障 害 と 生 活 の 調 整	18	0	18
働 き か け の 基 本 ・ 看 護 活 動	53	0	53
人 間 性 を 育 む	8	7	15
各 専 門 領 域 へ の 発 展	11	0	11
計	112	13	125

前学期

4月 1日 ~ 10月 15日まで

後学期

10月 16日 ~ 翌年 3月 31日まで

(注)「人間性を育む」の選択科目は、語学から4単位以上、その他の科目から3単位以上を履修しなければならない。(詳細は学生便覧を参照のこと)

保健師国家試験受験資格に関する科目および単位数

授 業 科 目	単 位 数	コ マ 数	配当年次および単位数										
			1年次		2年次		3年次		4年次				
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期			
疫 学△	1	18											1
医療行政・関係法規△	2	28										1	1
社 会 福 祉 学△	1	10				1							
家 族 関 係 論△	1	10						1					
公 衆 衛 生 学	2	20							2				
健 康 科 学 論△	1	10						1					
保健医療行動科学△	1	18											1
リハビリテーション△	1	10				1							
地域看護学・概論△	1	10						1					
地域看護学・各論△	2	28						2					
在 宅 看 護 論△	2	20						2					
地域看護学実習Ⅰ△	2	60							2				
地域看護学実習Ⅱ	4	120										4	
健 康 教 育 学	1	18							1				
公衆衛生看護活動展開論	2	28							2				
公衆衛生看護管理論	1	10							1				
保 健 医 療 統 計 学△	1	18				1							
情 報 科 学 演 習 Ⅰ△	1	18	1										
情 報 科 学 演 習 Ⅱ△	1	18				1							
リエゾン精神看護△	1	10											1

△ 印については、卒業に必要な必修科目。

養護教諭一種免許課程に関する科目および単位数

授 業 科 目	単 位 数	コマ数	配当年次および単位数							
			1年次		2年次		3年次		4年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
公衆衛生学	2	20						2		
疫学 [△]	1	18								1
健康科学論 [△]	1	10					1			
学校保健	2	20						2		
学校保健管理論	1	10							1	
養護概説	2	20						2		
健康教育学	1	18						1		
コミュニケーションの理論と実際	1	18							1	
栄養代謝学 [△]	2	28	1	1						
人体の構造と機能 [△]	4	56	2	2						
生体防御機構 [△]	1	10			1					
薬理学 [△]	2	28			1	1				
精神看護学・概論 [△]	1	10				1				
精神看護学・各論 [△]	2	28						2		
基礎看護学・各論Ⅰ(共通基本技術論) [△]	1	18	1							
基礎看護学・各論Ⅱ(生活援助論) [△]	2	36	1	1						
基礎看護学・各論Ⅲ(診断に伴う援助論) [△]	1	18		1						
基礎看護学・各論Ⅳ(看護過程論) [△]	1	18		1						
成人看護学・各論Ⅱ(専門領域の探求) [△]	2	28				2				
成人看護学実習Ⅰ [△]	3	90				3				
母性看護学・概論 [△]	1	10				1				
母性看護学・各論 [△]	2	28					2			
小児看護学・概論 [△]	1	10				1				
小児看護学・各論 [△]	2	28					2			
小児看護学実習 [△]	2	60						2		
地域看護学・各論 [△]	2	28					2			
教職入門	2	20				2				
教育学概論	2	20			2					
教育心理学	2	20				2				
教育課程論	2	20			2					
教育方法論	2	20						2		
生徒指導論	2	20						2		
教育相談	2	20						2		
教職実践演習(養護教諭)	2	20								2
養護実習	5	150							5	
日本国憲法★	2	20			2		(2)		(2)	
フィットネスの理論と実技 [△]	2	28	1	1						
英語Ⅰ-1 [△]	2	28	1	1						
情報科学演習Ⅰ [△]	1	18	1							
情報科学演習Ⅱ [△]	1	18				1				

★ 印については、2年次に履修しておくことが望ましい。

△ 印については、卒業に必要な必修科目。

アクティブラーニングについて

東京女子医科大学看護学部では、「アクティブラーニング」を導入しています。この学び方は、高校教育の学び方と異なるところがあります。以下の内容をよく理解して授業を受けてください。

【大学教育において重要なこと】

- 大学のカリキュラムは授業時間だけでなく、予習と復習時間を合わせて構成されています。
- 教科書を暗記するだけでも、与えられた課題を行っているだけでも、大学教育は十分とはいえません。自律的に学ぶことが重要です（自己主導型学習ともいいます）。
- 大学は「学び方を学ぶ」ところであり、“覚える”ことだけでなく、“常に考える”ことが大切です。
- 正解は一つだけではありませんので、さまざまな角度から考えるという批判的に考えること（クリティカルシンキング）が重要です。

I. アクティブラーニングとは

アクティブラーニングとは、「思考を活性化する」学習形態を指します。例えば、実際にやってみて考える、意見を出し合って考える、わかりやすく情報をまとめる、応用問題を解くなどのさまざまな活動を介して、より深くわかるようになることや、よりうまくできるようになることを目指します。

グループ学習や技術演習がイメージしやすいと思います。その他にも学生同士で説明しあったり、事例問題に取り組んだりすることなども含まれ、多種多様な方法があります。

II. なぜアクティブラーニングが重要なのか

医療は著しく発展し、今はロボットが手術をする時代へと変貌を遂げています。教科書に書かれた知識を覚えていれば、看護師として医療現場でやっていけるとは限りません。常に新しい知識を取り入れる努力を積み重ねる「生涯学習者」となる必要があります。また、現代社会は情報化と国際化が発展しています。その中でたくましく生き抜いていくための社会人基礎力が重要となります。

社会人基礎力とは、**1) 前に踏み出す力**（主体性・働きかけ力・実行力）、**2) 考え抜く力**（課題発見力・計画力・創造力）、**3) チームで働く力**（発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・自律性・ストレスコントロール）が挙げられます。これらを養うために、アクティブラーニングが重要です。

皆さんは、将来の看護を担う人として、このような人材になることを期待されています。今後の大学教育では、これらの内容を意識して取り組んでください。

東京女子医科大学看護学部
学生生活において接する情報の取り扱いに関する指針

教務委員会

はじめに

学生の皆さんは、学生生活において様々な質の情報に接します。ここでは、そのうち以下の2つの性質をもつ情報について、本学部における取り扱い上の基本的指針を示します。

A：個人情報保護の対象となる情報

B：著作権（知的財産権）保護の対象となる情報

学生の皆さんは、次のことを自分の責任においてよく理解したうえで行動して下さい。

1. その情報は、誰のどのような権利の元にあるものか
2. 自分は、なぜその情報を取り扱うことを許されているのか
3. どのような姿勢・態度で取り扱うことが、その人の尊厳や権利を守ることになるのか
4. その人の尊厳や権利を守るために、何を行ってはいけないか
5. その情報が本人の承諾なく第三者に流出した場合、誰がどのような不利益を被るか
6. 5に関する不利益につき、自分はその人および社会への責任を負うことができるのか

情報の取り扱いに関して、様々な教育場面において担当教員から注意・配慮すべきことを指導しますが、その都度の個別的な状況で判断できない場合は、必ず事前に教員に相談して下さい。皆さんの行為の結果、万が一著しく他者を傷つけたり悪質であると判断されたりした場合は、学内・外における処罰の対象となります。

A：個人情報保護の対象となる情報に関する取扱い上の指針

「個人情報」とは：

生存する特定の個人を識別できる情報（氏名、生年月日等、映像も含む）を指す。これには、他の情報と容易に照合することによって特定の個人を識別することができる情報および個人情報データベースも含む。

本学の個人情報保護に関連する規定・指針

ここで示されている指針は、本学の以下の規定に基づいている。

1) 学則第 11 章 学生に関する規定

（学生に関する規定）

第 36 条 個人情報保護に関する本学のガイドラインに則り、学生生活で得られる個人情報は学習の目的のみに利用し、これを生涯守秘することを義務とする。

なお、指示に応じてその都度所定の誓約書に署名するものとする。

2. 本学則の定めるもののほか、学生に関する規定を別に定める。

- 2) 東京女子医科大学における個人情報の保護に関するガイドライン
<http://160.24.252.1/images/infra/pdf/kisoku/kojinjouhouhogo-guideline.pdf>
(閲覧は学内からのみ可能)
- 3) 東京女子医科大学における情報公開の指針
<http://160.24.252.1/images/infra/pdf/kisoku/kojinjouhouhogo-guideline.pdf>
(閲覧は学内からのみ可能)

1. 学生生活一般において

- 1) 他学生・教員の個人情報を本人の承諾を確認せず、または本人の意図に反して第三者に渡したり外部に流出させたりしない。たとえ誹謗中傷でない内容であったとしても行ってはいけない。
- 2) インターネットは、そのまま世界中に向けて情報を発信しているという認識で取り扱う。一旦ウェブサイト等に掲載されてしまった情報は完全に削除することはほぼ不可能であり、自分の意図を離れて第三者にどのように利用されるかは不明であることを自覚しておく。(友達同士では冗談で済まされるような話でも、世間では「事件」になることがある。)
- 3) インターネットに接続している電子機器（パソコン、スマートフォンなど）に個人情報を保存している場合は、次のことに注意する。
 - ・パソコンを家族や知人と共有している場合、その人たちへの注意を促す
 - ・ドキュメント共有ソフトと共存させない
 - ・適時、OS やウイルス対策ソフトを更新する
- 4) インターネット上に他者についての情報を書き込むときは次のことに注意する。
 - ・住所、仕事内容、家族構成、写真など
 - ・所属している組織（大学、アルバイト先など）に迷惑となること
 - ・法律で禁止されていること

2. 講義・演習における場合

- 1) 講義・演習中の学生や教員を本人の承諾を得ず撮影しない。
- 2) 講義・演習中の学生や教員の個人情報を本人の承諾を得ずインターネット上に書き込まない。
- 3) 個別の状況に応じて、担当教員から指示があった場合にはそれに従うこと。

3. 臨地実習における場合

- 1) 記録物、資料には患者氏名、イニシャル等の個人が特定できる情報は書かない。
- 2) 記録物の提出はレポートボックスまたは教員への手渡しで提出する。
- 3) 実習終了後の記録類の保管は個人の責任で厳重に管理する。保管の必要がなくなった場合には、シュレッダーを利用し処分する。
- 4) 電子カルテは学生用のパスワードを用いて閲覧する。データを印刷してはならない。実習以外の目的で不正にアクセスした場合は本学懲罰委員会の規定に基づき処分の対象となる。
- 5) 診療録・看護記録等の閲覧は施設内の決められた場所で行う。
- 6) 患者の個人情報等(職員や組織に関することも含む)をブログや Twitter・Facebook・LINE などを通じてインターネット上に公開した場合は、本学懲罰委員会の規定に基づき処分の対象となる。
- 7) エレベータ、通路、公道で決して患者や院内の情報に関わることを話さない。

- 8) 電車内への置き忘れなど、実習記録・資料の紛失に十分注意する。記録物の紛失はインシデント扱いとなる。
- 9) 個別の状況に応じて、担当教員から指示があった場合にはそれに従うこと。

【参考資料】

- ・ 個人情報の保護に関する法律（略して個人情報保護法）：
消費者庁 HP から
http://www.caa.go.jp/seikatsu/kojin/index_sub001.html
- ・ 医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン
厚生労働省 HP から
<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/seisaku/kojin/dl/170805-11a.pdf>

B：著作権保護の対象となる情報に関する取扱い上の指針

「著作権」とは：

著作物は、それを考え出した人の人権そのものという性質、文化の発展に寄与するという性質、経済的な財産としての性質を併せ持っている。著作者の人権や経済的な財産をととしての性質を保護することで、著作物の創作を促進し文化の発展に寄与するための権利である。

大学生活では、著作物や著作権に配慮しなければならない場面が数多くある。ここでは、特に以下の場面について基本的指針を示す。

1. 論文・レポートや研究発表

他人の著作物を利用したり、他人の意見を記載したりする場合は、次の「引用の原則」を守る。

- ・ 公表された著作物の引用であること
- ・ 論文等の引用として正当な範囲内であること
- ・ 引用部分が本文と明確に区別されていること
- ・ 引用部分が本文からみて従であること
- ・ 引用に必然性があること
- ・ 必要最低限の引用であること
- ・ 出典を明記すること
- ・ 勝手な変更を加えないこと

2. 図書館での書籍等のコピー

調査研究のために公表された著作物の一部分を一人につき 1 部だけに止める。コピーの範囲は、慣行として著作物の半分までとする。

3. 講義や授業での使用

- 1) 著作者の許諾がなくても著作物を利用する場合は、次の条件を満たした場合とする。
 - ・ 授業を担当する教員やその授業を受ける学生自身がコピーすること
 - ・ 授業を受ける学生数を大幅に超えない部数をコピーすること
 - ・ 著作権者の利益を不当に害しないこと
- 2) 著作権者の許諾なしに、授業の様子をビデオ撮影、写真撮影あるいは録音したものをネット等で配信したり、DVD 等に記録して配布したりしない。

4. サークル活動や大学祭での使用

- 1) 次のような場合には、著作権者の許諾が必要になるので注意する。
 - ・ 授業の一環としてではない営利を目的としない演奏会等に伴って歌詞コピー等の資料を配布すること
 - ・ 新歓ポスターや演奏会等のポスター等にアニメやマンガのキャラクターを使用すること
- 2) 正当に購入したビデオや DVD を利用した上映会は、営利を目的とせず、聴衆や観客から料金を受け取らないのであれば、著作権法上の問題はない。ただし、レンタルや上映を禁止しているものもあるので注意する。

5. 自己のウェブサイトでの使用、インターネット上の掲示板や動画投稿サイト

インターネット上のサイトといった新しいメディアであっても、著作権に関しては、書籍等の以前からあるメディアと同様の扱いとする。

【参考資料】

- ・ 公益社団法人著作権情報センター (CRIC) : <http://www.cric.or.jp/>
- ・ 京都教育大学現代 GP 2008 年 学生と教師のための著作権基礎知識 :
<http://kyoshien.kyokyo-u.ac.jp/public/chosakuken/kisochishiki.pdf>

学則第 11 条関係 試験に関する規程（看護学部）

第 1 条 学習を助けかつ学力を測定するために試験を行う。

第 2 条 試験は授業の科目責任者が行うものとする。

第 3 条 試験は、科目の終了時に行う。ほかに中間試験は適時施行することができる。

第 4 条 試験の期日は概ね 2 週間前までに発表するものとする。

第 5 条 疾病またはやむを得ない事故により試験に出席できない時はその理由を試験欠席届に記入し、保証人連署の上 7 日以内に届け出なければならない。

第 6 条 授業時数の 3 分の 2 以上の出席者でなければ当該授業科目の終了時に行われる試験を受けることができない。

2. 前項以外の試験における受験資格については各授業の科目責任者が適宜定めるものとする。

3. 自然災害等により講義・実習に出席できない時はその理由を欠席届に記入し、保証人連署の上 7 日以内に届け出なければならない。なお、届け出のあった者については、欠席扱いとしない。

第 7 条 当該授業科目の終了時に行われる試験を欠席した者で第 5 条の届け出のあった者については原則として追試験を行う。ただし、再試験は行わない。

2. 前項以外の試験に欠席した者には必要に応じて追試験を行うことができる。

第 8 条 当該授業科目の終了時に行われる試験の不合格者には原則として再試験を行う。

2. 前項以外の試験に不合格の者には必要に応じて再試験を行うことができる。

第 9 条 追試験と再試験とは原則として試験終了後 3 週間以内に行う。ただし、その間に季節休業日のある時はその期間は含まないものとする。

第 10 条 第 7 条第 1 項に定める追試験ならびに第 8 条第 1 項に定める再試験を受ける者は受験料として 1 科目 2,000 円を納入するものとする。

第 11 条 試験の監督はその授業科目担当の教員（原則として 2 名）が行う。

ただし、やむを得ない場合に限って担当以外の専任教員または学務課員が補助する。

第 12 条 試験中不正行為を行った者に対しては、直ちに退場を命じ、当該試験の成績を 0 点とする。

第 13 条 試験の成績は 100 点を満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする。ただし、セミナー、実習、卒論は A、B、C および D の評語とする。

第 14 条 追試験の成績は 2 割の減点を行う。

第 15 条 再試験で合格した場合、その授業科目の成績は 60 点とする。

第 16 条 学籍簿への記載は評語によるものとする。評語は次のとおりとする。

A は 80 点以上、B は 70 点より 80 点未満、C は 60 点より 70 点未満、D は 60 点未満（不合格）。

第 17 条 自然災害等により試験に出席できない時はその理由を試験欠席届に記入し、保証人連署の上 7 日以内に届け出なければならない。なお、届け出のあった者については、別日程で試験を行う。ただし、受験料は別途徴収せず、試験成績の 2 割の減点も行わない。

2. 他の施設の就職試験や入学試験により試験に出席できない時は、入学試験・就職試験に伴う欠席届に欠席事由および施設証明欄を記載し、保証人連署の上 7 日以内に届け出なければならない。なお、届け出のあった者については、別日程で試験を行なう。ただし、受験料は別途徴収せず、試験成績の 2 割減点も行わない。

科目別到達目標
講義スケジュール

人間の本質を問う

[生物としての人間]

科目責任者：大槻 弘順

目的

人間は地球上で唯一、文明を持つ生物である。医療も看護も人類が築いた文明の延長上にある。しかし、人間も生物の一種であることに違いはない。この授業では生命とは何かを考えてもらい、生命に共通する能力や、生命を維持する上で共通する仕組みについて学ぶ。また、人間も生態系の一員であり、他の生物なしでは生きることができないことを理解する。その上で、人間に特有な生物学的な特徴を考えてもらう。さらに、文明が生み出した生命科学の進展により、ある程度の生命操作が可能になってきている状況を理解し、将来の看護や医療がどのような意味を持つものであるかについても考えてもらいたい。

到達目標

1. 生命とは何かについて、深く考察できる。
2. 生命活動を維持する上で必要な事柄を説明できる。
3. 生態系という観点から、人間と他の生物との関わりを説明できる。
4. 細胞の構造と活動、および細胞小器官の働きを説明できる。
5. 細胞呼吸とエネルギー生産について説明できる。
6. 「DNA」と「遺伝子」の意味するものの違いについて説明できる。
7. 遺伝子発現（転写・翻訳）の基本的事項について説明できる。
8. 生物進化の観点をもち、生命科学の現状を理解すると共に、人類の未来に関して考察できる。

大項目	中項目	小項目
I. 生命とはなんだろう？	1. 「生命」に共通なものは？ 2. 「人間という動物」を考えてみよう	1) 「生命」に共通した能力とは？ 2) 「生命」を実現する共通の仕組みとは？ 1) 「人間のような動物」が生命を維持する仕組みとは 2) 摂食、消化、吸収、呼吸、神経系、運動、恒常性 3) 生態系の中の人間
II. 細胞の仕組みと働き	1. 細胞が生命の基本単位 2. 細胞を観察してみよう（1） 3. 細胞を観察してみよう（2） 4. 細胞を観察してみよう（3） 5. 細胞活動と細胞小器官（1） 6. 細胞活動と細胞小器官（2） 7. 細胞活動と細胞小器官（3）	1) 真核細胞と原核細胞、細胞とウイルス 2) 細胞を構成する分子 1) 細胞膜の構造と輸送 2) 核、粗面小胞体とリボソーム、滑面小胞体 1) ゴルジ体、リソソーム、ペルオキシソーム 2) エンドサイトーシス、エクソサイトーシス 1) 細胞骨格 2) ミトコンドリアと葉緑体

生物としての人間

大項目	中項目	小項目
III. 遺伝子とその働く仕組み	1. 遺伝子とは何か?	1) 染色体と DNA 2) DNA と遺伝子との関係
	2. DNA と RNA	1) 塩基、ヌクレオチド 2) DNA の複製、体細胞分裂、減数分裂
	3. 転写と翻訳の仕組み (1)	1) mRNA、アミノ酸とコドン 2) エキソンとイントロン
	4. 転写と翻訳の仕組み (2)	1) tRNA 2) リボソームによるタンパク質合成の仕組み
	5. 遺伝子発現の調節	1) 原核生物の遺伝子発現調節 2) 真核生物の遺伝子発現調節
	6. 突然変異と進化 (1)	1) DNA 突然変異 2) 染色体突然変異
	7. 突然変異と進化 (2)	1) 突然変異と遺伝病 2) トランスポゾンと遺伝子重複、進化
IV 生体維持のエネルギー	1. 細胞呼吸とエネルギー生産 (1)	1) ATP、酵素と代謝 2) 解糖系
	2. 細胞呼吸とエネルギー生産 (2)	1) ミトコンドリアによる ATP 合成の仕組み 2) 光合成の仕組み
V. 医療と生命操作	1. 医療と生命操作 (1)	1) 遺伝子診断 2) 遺伝子治療
	2. 医療と生命操作 (2)	1) 発生・細胞分化 2) 再生医療

成績評価の方法：

期末試験により評価する。

教科書：

高畑雅一，増田隆一，北田一博 著 系統看護学講座 基礎分野 生物学 医学書院
(必要に応じてプリントを配布する)

参考図書：

講義の中で紹介する。

<講義スケジュール>

1	2016.	4. 18	月	16:35~17:45	大相弘順	「生命」に共通なものは？	大教室
2		4. 25	月	16:35~17:45	大相弘順	「人間という動物」を考えてみよう	大教室
3		5. 9	月	16:35~17:45	大相弘順	細胞が生命の基本単位	大教室
4		5. 30	月	16:35~17:45	大相弘順	細胞活動と細胞小器官 (1)	大教室
5		5. 31	火	9:00~10:10	神山暢夫	細胞を観察してみよう (1) A	科学実験室
6		5. 31	火	10:25~11:35	神山暢夫	細胞を観察してみよう (2) A	科学実験室
7		5. 31	火	12:30~13:40	神山暢夫	細胞を観察してみよう (3) A	科学実験室
5		5. 31	火	13:55~15:05	神山暢夫	細胞を観察してみよう (1) B	科学実験室
6		5. 31	火	15:15~16:25	神山暢夫	細胞を観察してみよう (2) B	科学実験室
7		5. 31	火	16:35~17:45	神山暢夫	細胞を観察してみよう (3) B	科学実験室
8		6. 6	月	16:35~17:45	大相弘順	細胞活動と細胞小器官 (2)	大教室
9		6. 13	月	16:35~17:45	大相弘順	細胞活動と細胞小器官 (3)	大教室
10		6. 27	月	16:35~17:45	大相弘順	遺伝子とは何か？	大教室
11		7. 4	月	16:35~17:45	大相弘順	DNA と RNA	大教室
12		7. 11	月	16:35~17:45	大相弘順	転写と翻訳の仕組み (1)	大教室
13		8. 29	月	16:35~17:45	大相弘順	転写と翻訳の仕組み (2)	大教室

14	9. 5	月	16:35~17:45	大相弘順	遺伝子発現の調節	大教室
15	9.12	月	16:35~17:45	大相弘順	突然変異と進化（1）	大教室
16	9.26	月	16:35~17:45	大相弘順	突然変異と進化（2）	大教室
17	10. 3	月	16:35~17:45	大相弘順	細胞呼吸とエネルギー生産（1）	大教室
18	10.24	月	16:35~17:45	大相弘順	細胞呼吸とエネルギー生産（2）	大教室
19	10.31	月	16:35~17:45	大相弘順	医療と生命操作（1）	大教室
20	11.21	月	16:35~17:45	大相弘順	医療と生命操作（2）	大教室
	12.12	月	16:35~17:45	大相弘順	試験	中教室・視聴覚室

[栄養代謝学]

科目責任者：伊東栄子

目的

日本人の食と栄養、食事摂取の基本を理解した上で、消化吸収された栄養素からのエネルギー獲得（異化作用）と自身の身体を構築（同化作用）するメカニズムを学ぶ。さらに、日常の食事摂取により生じる生活習慣病と異化・同化作用の関連についての理解を深める。

到達目標

1. 健康をもたらす食物中の栄養素を列挙し、その役割を記述できる。
2. 食事摂取基準の概念を説明できる。
3. 学童期と思春期・青年期における身体的な特徴から、必要な栄養を説明できる。
4. 自分自身の食を分析し、食の改善を図れる。
5. 糖質、脂質とタンパク質の消化吸収を記述できる。
6. 糖質、脂質とタンパク質の異化と同化の関連を明確に述べられる。
7. 同化により生成された、体内の糖質、脂質とタンパク質の役割を記述できる。
8. 物質代謝の観点から生活習慣病を説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 日本人の食と栄養	1. 健康と栄養 2. 日本人の食事摂取基準 3. 食物と栄養 4. ライフステージと栄養 5. 食のアセスメント	1) 各栄養素と人体との関連 2) 栄養状態の判定(BMI等)、低栄養と過剰栄養 1) 概要と考え方 2) 推定エネルギー必要量（基礎代謝、身体活動レベル） 1) 食品の種類と栄養素 2) 食品中の栄養素とその役割 3) 栄養価 1) 乳幼児期 2) 学童期 3) 思春期 4) 成人期 5) 老年期 1) 自己の食の分析および改善計画
II. 代謝の基本概念	1. 代謝とエネルギー 2. 酵素反応	1) 生体物質の異化と同化 2) エネルギーの産生・貯蔵・消費 1) 反応機構 2) ビタミンの役割 3) 調節機構
III. 物質の代謝	1. 糖質の代謝 2. タンパク質の代謝	1) 消化と吸収 2) 嫌氣的解糖 3) 好氣的解糖 4) グリコーゲン代謝 5) 糖新生 6) ペントース代謝 1) 消化と吸収 2) タンパク質の代謝 3) アミノ酸の代謝 4) 窒素平衡

大項目	中項目	小項目
	3. 脂質の代謝	1) 消化と吸収 2) 脂肪酸の代謝 3) トリアシルグリセロールの代謝 4) コレステロールの代謝 5) リン脂質の代謝
	4. 核酸の代謝	1) ヌクレオチドの代謝 2) タンパク質合成
IV. 代謝と疾病	1. 食と疾病	1) 低栄養による疾病（クワシオルコル、マラスムス） 2) 過剰栄養による疾病
	2. 生活習慣病	1) 生活習慣病の概要 2) (高脂血症、高尿酸血症、インスリン非依存性糖尿病)

成績評価の方法：筆記試験 86%、レポート 14%

教科書：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学	医学書院	2014
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [3] 栄養学	医学書院	2015
新食品成分表フーズサポーター (CD-ROM) 付	東京法令出版	2014

参考図書：

著者名	タイトル	シリーズ	出版年	出版者	版
岡野栄之 原案監修	Vol.1 生命の単位：細胞	基礎医学シリーズ 目で見える生化学入門	2003	医学映像教育 センター	第2版
岡野栄之 原案監修	Vol.2 生命を支える物質	基礎医学シリーズ 目で見える生化学入門	2003	医学映像教育 センター	第2版
岡野栄之 原案監修	Vol.3 生体エネルギー (I)	基礎医学シリーズ 目で見える生化学入門	2003	医学映像教育 センター	第2版
岡野栄之 原案監修	Vol.4 生体エネルギー (II)	基礎医学シリーズ 目で見える生化学入門	2003	医学映像教育 センター	第2版
岡野栄之 原案監修	Vol.5 生体機能とタンパク質	基礎医学シリーズ 目で見える生化学入門	2003	医学映像教育 センター	第2版
岡野栄之 原案監修	Vol.6 生命の継続	基礎医学シリーズ 目で見える生化学入門	2003	医学映像教育 センター	第2版

<講義スケジュール>

AL: アクティブラーニング

1	2016.	4. 15	金	9:00~10:10	伊東栄子	健康と栄養、栄養状態の判定	大教室
2		4. 15	金	10:25~11:35	伊東栄子	食物と栄養	大教室
3		4. 21	木	12:30~13:40	伊東栄子	エネルギー代謝、食事摂取基準	大教室
4		4. 21	木	13:55~15:05	伊東栄子	ライフステージと栄養	大教室
5		5. 6	金	13:55~15:05	伊東栄子	実習の説明	大教室
6		5. 11	水	12:30~13:40	伊東栄子	食事調査と尿検査①B AL	科学実験室
6		5. 11	水	13:55~15:05	伊東栄子	食事調査と尿検査①A AL	科学実験室
6		5. 18	水	12:30~13:40	伊東栄子	食事調査と尿検査①B AL	科学実験室
6		5. 18	水	13:55~15:05	伊東栄子	食事調査と尿検査①A AL	科学実験室
7		6. 2	木	12:30~13:40	伊東栄子	「尿にみる食」と「お弁当箱法」	大教室

<講義スケジュール>

8	6.9	木	15:15~16:25	伊東栄子	グループワークによる分析と討論 AL	大教室
9	6.9	木	16:35~17:45	伊東栄子	グループワークによる分析と討論 AL	大教室
10	6.16	木	9:00~10:10	伊東栄子	討論結果の報告会① AL	大教室
11	6.16	木	10:25~11:35	伊東栄子	討論結果の報告会②AL	大教室
12	6.17	金	9:00~10:10	伊東栄子	討論結果の報告会③と献立立案 AL	大教室
13	6.28	火	15:15~16:25	伊東栄子	食事調査と尿検査②B AL	科学実験室
13	6.28	火	16:35~17:45	伊東栄子	食事調査と尿検査②A AL	科学実験室
13	7.6	水	13:55~15:05	伊東栄子	食事調査と尿検査②B AL	科学実験室
13	7.6	水	15:15~16:25	伊東栄子	食事調査と尿検査②A AL	科学実験室
14	11.22	火	10:25~11:35	伊東栄子	代謝の基本概念 1 代謝とエネルギー	大教室
15	12.7	水	16:35~17:45	伊東栄子	代謝の基本概念 2 酵素と補酵素	大教室
16	12.8	木	15:15~16:25	伊東栄子	三大栄養素の消化吸収	大教室
17	12.8	木	16:35~17:45	伊東栄子	物質の代謝 1 糖質代謝 1	大教室
18	12.9	金	9:00~10:10	伊東栄子	物質の代謝 2 糖質代謝 2	大教室
19	12.14	水	15:15~16:25	伊東栄子	物質の代謝 3 糖質代謝 3	大教室
20	12.14	水	16:35~17:45	伊東栄子	物質の代謝 4 糖質代謝 4	大教室
21	2017. 1.10	火	15:15~16:25	伊東栄子	物質の代謝 5 脂質代謝 1	大教室
22	1.11	水	16:35~17:45	伊東栄子	物質の代謝 6 脂質代謝 2	大教室
23	1.19	木	13:55~15:05	伊東栄子	物質の代謝 7 タンパク質代謝 1	大教室
24	1.20	金	10:25~11:35	伊東栄子	物質の代謝 8 タンパク質代謝 2	大教室
25	1.24	火	15:15~16:25	伊東栄子	物質の代謝 9 核酸代謝	大教室
26	1.24	火	16:35~17:45	伊東栄子	食と疾病、生活習慣病の概要	大教室
27	1.25	水	15:15~16:25	伊東栄子	生活習慣病 1	大教室
28	1.26	木	10:25~11:35	伊東栄子	生活習慣病 2	大教室
	2.8	水	12:30~13:40	伊東栄子	試験	中教室・視聴覚室

[人体の構造と機能]

科目責任者：神山暢夫

科目担当者：神山暢夫、鈴木義司

【目的】

私たちは「生きて」いて、様々な活動をすることで生活している。これらの活動を可能としているのは身体の中にある様々な器官である。ただじっと「生きて」いるだけでも、身体の中ではいろいろな器官がお互いに協調して機能している事が必要である。[人体の構造と機能]では、これらの諸器官がどのようなしくみで機能しているか、そしてその機能を実現するために、どのような構造になっているのかを学ぶ。今後、上位の学年で看護、医療の専門分野を学習する際に必要不可欠となる知識を身に付ける。

【到達目標】

1. 医療分野における専門的な用語を習得し、理解して使えるようにする。
2. 体内に存在する各器官の名称と意義を理解する。
3. 生命を維持する諸器官の構造と機能を学び、その意義を理解する。
4. 日常行動を支える諸器官の役割や相互作用を理解する。
5. 他科目で習得した知識との統合を行なって、人体についての理解を発展的に展開する。

大項目	中項目	小項目
I. 生体を構成する要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞 2. 組織 3. 器官 4. 系統 	4大組織（上皮組織、結合組織 筋組織、神経組織）
II. 身体の支持を行う器官 (皮膚および骨格系)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚の構造と機能 2. 骨の基本構造と機能 3. 全身の骨の構成 4. 関節と靭帯の基本構造と機能 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 表皮、真皮、皮下組織 2) 付属器官（毛、爪、汗腺） 1) 骨の構造と組成 2) 化骨とカルシウム代謝 1) 頭蓋を構成する骨とその特徴 2) 胴体を構成する骨とその特徴 3) 上肢を構成する骨とその特徴 4) 下肢を構成する骨とその特徴 骨盤 1) 関節の種類 2) 関節の作用
III. 血液とリンパ液	<ol style="list-style-type: none"> 1. 血液の組成と機能 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 血球（赤血球、白血球、血小板）および造血組織 2) 血漿 3) 血液凝固
IV. 循環を行う器官 A血液循環	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心臓の構造 2. 心臓の機能 3. 血管の構造と機能 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 心房と心室 2) 大動脈と大静脈 3) 冠状血管 1) 心臓の興奮と伝播 2) 心電図 3) 心臓の収縮（心周期） 4) 血圧と脈拍 1) 血管の種類と特徴 (動脈、静脈、毛細管) 2) 動脈と静脈の分布

人体の構造と機能

大項目	中項目	小項目
Bリンパ循環	4. 循環経路 1. リンパ系の構成 2. 全身のリンパ	1) 体循環 2) 肺循環 3) 門脈循環 4) 胎児循環 1) リンパ節、リンパ管 1) リンパ節の分布 2) 胸管とリンパ本幹 3) 扁桃と胸腺
V. 呼吸を行う器官 (呼吸器系)	1. 気道の構造と機能 2. 肺の構造 3. 肺の機能	1) 気道の区分 (鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支) とその特徴 1) 肺の外形 2) 区域気管支と肺胞 3) 胸膜と縦隔 1) 呼吸運動 2) 肺気量 3) ガス交換 4) 呼吸と酸塩基平衡 5) 呼吸調節
VI. 代謝に関わる器官 A 消化器系	1. 消化器官の構造 2. 消化器官の機能	1) 消化管 (口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸) とその特徴 2) 消化腺 (唾液腺、膵臓、肝臓、胆嚢) とその特徴 1) 消化管の運動 2) 消化管の分泌 (消化酵素、消化管ホルモン) 3) 消化と吸収
B 泌尿器系	1. 泌尿器の構造 2. 尿の生成と水分調節	1) 腎臓の構造とネフロンの機能 2) 尿路 (尿管、膀胱、尿道) 1) 糸球体濾過 2) 尿細管での輸送 3) 腎機能の調節 4) 排尿
C 体温調節系	1. 体温の分布 2. 熱放散 3. 熱産生 4. 体温調節	1) 核心温度 2) 外殻温度 1) 放射 2) 伝導 3) 蒸散 1) ふるえ 2) 非ふるえ 1) 温度受容 2) 体温調節中枢 3) 発熱
VII. 運動を行う器官 (筋系)	1. 筋の基本構造と機能	1) 筋の種類 (横紋筋、平滑筋、心筋) 2) 筋原線維の構造 3) 筋収縮の機構 4) 反射

大項目	中項目	小項目
VIII. 体の働きを調節し、情報の処理や創造を行う器官 A神経系	2. 全身の筋の構成とその作用	1) 表情筋と咀嚼筋 2) 体幹の筋 3) 上肢の筋 4) 下肢の筋
	1. 神経の基本構造と機能	1) ニューロンの構造と種類 2) 刺激と興奮 3) 膜電位（静止電位、活動電位） 4) 興奮の伝導 5) シナプス伝達
	2. 中枢神経の分類（脳と脊髄）	1) 脳の区分（大脳、間脳、中脳、小脳、橋、延髄）とその構造 2) 脊髄
	3. 中枢神経の機能（各種機能中枢）	1) 大脳皮質と連合野 2) 間脳の働き 3) 脳幹の働き 網様体と生命中枢 4) 小脳の働き 5) 脊髄の働き 6) 反射 7) 伝導路
	4. 末梢神経の分布と機能	1) 脳神経の分布 2) 脊髄神経の分布 3) 知覚神経と運動神経
B内分泌系	5. 自律神経系	1) 交感神経 2) 副交感神経
	1. 内分泌器官の構造と機能	1) 下垂体とそのホルモン 2) 甲状腺と上皮小体 3) 副腎とランゲルハンス島 4) 松果体および性腺
C感覚器系	1. 視覚	1) 眼球の構造 2) 副眼器（眼筋、涙腺） 3) 結像と色感覚 4) 視覚の投射
	2. 聴覚と平衡覚	1) 耳の構造（外耳、中耳、内耳） 2) 音の伝導と平衡覚 3) 聴覚の投射
	3. その他の感覚	1) 味覚 2) 嗅覚 3) 皮膚感覚 4) 内臓覚と深部覚
IX. 生殖と発生に関わる器官	1. 男性生殖器	1) 精巣と精子形成 2) 精子の通路（精巣上体、精管、精嚢）と付属腺（前立腺、尿道球腺）
	2. 女性生殖器	1) 女性生殖器の構造（卵巣、卵管、子宮） 2) 卵子形成、排卵と性周期
	3. ヒトの発生	1) 受精、着床と胎盤 2) 初期発生と先天異常

人体の構造と機能

成績評価の方法：筆記試験（100%）

教科書

坂井健雄・岡田隆夫 系統看護学講座専門基礎分野
解剖生理学・人体の構造と機能 第9版 医学書院 2014

参考図書

*解剖学

著者名	タイトル	シリーズ	出版年	出版者	版
Richard L. Drake 他著 塩田浩平 他訳	グレイ解剖学		2011	エルゼビア・ ジャパン	原著第2版
藤田尚男 他	標準組織学 各論		2010	医学書院	第4版
藤田尚男 他	標準組織学 総論		2015	医学書院	第5版
Gerard J. Tortora 他 著 佐伯由香 他編訳 石橋隆治 他訳	トートラ人体解剖生理学		2014	丸善出版	原著9版

*生理学

大地陸男	生理学テキスト		2013	文光堂	第7版
本間研一 他編	標準生理学	Standard textbook	2014	医学書院	第8版
岡田隆夫 編	集中講義生理学： カラーイラストで学ぶ： physiology		2014	メジカル ビュー社	改訂2版

*解剖生理学

Barbara Herlihy 片桐康雄 他監訳	ヒューマンボディ： からだの不思議がわかる 解剖生理学		2008	エルゼビア・ ジャパン	原著第3版
下正宗 他編 村田哲也 他	人体の構造と機能	コアテキスト1	2010	医学書院	第2版
Steve Parker	みえる人体：構造・機能・病態		2009	南江堂	

<講義スケジュール>

1	2016. 4. 18	月	13:55~15:05	神山暢夫	人体の構造と機能・授業の概要	大教室
2	4. 20	水	9:00~10:10	神山暢夫	ヒトの体	大教室
3	4. 25	月	9:00~10:10	神山暢夫	細胞の中と外	大教室
4	4. 27	水	16:35~17:45	神山暢夫	体内の水・生理食塩水	大教室
5	5. 9	月	13:55~15:05	神山暢夫	血液の組成	大教室
6	5. 10	火	15:15~16:25	神山暢夫	血液の働き	大教室
7	5. 16	月	13:55~15:05	神山暢夫	循環の概要	大教室
8	5. 17	火	12:30~13:40	神山暢夫	心臓の構造	大教室
9	5. 23	月	13:55~15:05	神山暢夫	心臓の収縮（1）	大教室
10	5. 24	火	10:25~11:35	神山暢夫	心臓の収縮（2）	大教室
11	5. 30	月	12:30~13:40	神山暢夫	心電図	大教室
12	6. 6	月	12:30~13:40	神山暢夫	動脈と静脈	大教室
13	6. 7	火	10:25~11:35	神山暢夫	血液循環の動態	大教室
14	6. 8	水	16:35~17:45	神山暢夫	いろいろな血管	大教室
15	6. 13	月	10:25~11:35	神山暢夫	呼吸の概要	大教室
16	6. 14	火	10:25~11:35	神山暢夫	肺の構造	大教室
17	6. 22	水	13:55~15:05	神山暢夫	換気とは	大教室

<講義スケジュール>

18	6.30	木	9:00~10:10	鈴木義司	骨学の概要	大教室
19	6.30	木	10:25~11:35	鈴木義司	全身の骨	大教室
20	7.1	金	13:55~15:05	神山暢夫	全身の筋	大教室
21	7.4	月	12:30~13:40	神山暢夫	ガス交換	大教室
22	7.5	火	12:30~13:40	神山暢夫	肺機能とその検査	大教室
23	7.11	月	9:00~10:10	神山暢夫	中間試験	視聴覚室・中教室
24	8.30	火	10:25~11:35	神山暢夫	皮膚の構造と機能	大教室
25	9.5	月	12:30~13:40	神山暢夫	腎機能の概要	大教室
26	9.6	火	10:25~11:35	神山暢夫	ネフロン構造	大教室
27	9.12	月	15:15~16:25	神山暢夫	尿の生成	大教室
28	9.13	火	10:25~11:35	神山暢夫	腎機能の調節	大教室
29	9.20	火	10:25~11:35	神山暢夫	体液のホメオスタシス	大教室
30	9.28	水	16:35~17:45	神山暢夫	消化器系の概要	大教室
31	9.29	木	10:25~11:35	神山暢夫	栄養と消化、吸収	大教室
32	10.3	月	10:25~11:35	神山暢夫	上部消化管	大教室
33	10.4	火	15:15~16:25	神山暢夫	下部消化管	大教室
34	10.11	火	16:35~17:45	神山暢夫	腹部実質臓器	大教室
35	10.18	火	16:35~17:45	神山暢夫	神経系の概要	大教室
36	10.19	水	15:15~16:25	神山暢夫	膜電位の発生	大教室
37	10.20	木	9:00~10:10	神山暢夫	活動電位の発生と伝導	大教室
38	10.24	月	15:15~16:25	神山暢夫	シナプス	大教室
39	10.31	月	15:15~16:25	神山暢夫	筋の構造と収縮	大教室
40	11.2	水	16:35~17:45	神山暢夫	筋収縮のコントロール	大教室
41	11.21	月	10:25~11:35	神山暢夫	中枢神経系の解剖	大教室
42	11.24	木	10:25~11:35	神山暢夫	脊髄と末梢神経	大教室
43	11.25	金	13:55~15:05	神山暢夫	反射の解剖と機能	大教室
44	12.6	火	10:25~11:35	神山暢夫	感覚器の概要	大教室
45	12.7	水	15:15~16:25	神山暢夫	聴覚と平衡覚	大教室
46	12.12	月	12:30~13:40	神山暢夫	視覚	大教室
47	12.13	火	10:25~11:35	神山暢夫	自律神経系の概要	大教室
48	2017. 1.10	火	10:25~11:35	神山暢夫	自律神経系の解剖	大教室
49	1.11	水	15:15~16:25	神山暢夫	自律神経系の支配の原則と例外	大教室
50	1.23	月	10:25~11:35	神山暢夫	生殖の意義と概要	大教室
51	1.24	火	10:25~11:35	神山暢夫	男性生殖器	大教室
52	2.6	月	10:25~11:35	神山暢夫	女性生殖器	大教室
53	2.7	火	10:25~11:35	神山暢夫	内分泌系の概要	大教室
54	2.8	水	13:55~15:05	神山暢夫	ホルモンの分類	大教室
55	2.13	月	10:25~11:35	神山暢夫	内分泌各論 1	大教室
56	2.14	火	10:25~11:35	神山暢夫	内分泌各論 2	大教室
	2.15	水	10:25~11:35	神山暢夫	期末試験	視聴覚室・中教室

[生体の化学]

科目責任者：伊東栄子

目的

生体機能を理解するためにはその基本に化学的な知識が必要である。この講義では、高校までに学習した化学を再学習し、さらに生体を構成する有機化合物の持つ特性を学ぶことから、生体で起こる事象や機能についての理解を深める。

到達目標

1. 物質と元素の関係を説明できる。
2. 原子を構成する3つの要素を記述できる。
3. イオン結合、共有結合、水素結合の違いを説明できる。
4. pHの定義を記述できる。
5. 水分子の持つ極性を理解し、親水性の物質と疎水性の物質の違いを明確に記述できる。
6. 酸化と還元を説明できる。
7. 有機化合物の定義を説明できる。
8. 糖質、脂質、タンパク質の構成成分を記述できる。
9. 体内における糖質、脂質、タンパク質の機能を列挙できる。
10. タンパク質の機能と立体構造の関係を説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 無機化学の基礎	1. 原子、分子、物質 2. 酸と塩基 3. 溶液 4. 酸化と還元	1) 原子の構造 2) 化学結合 3) 化合物 1) イオン 2) pHと緩衝作用 1) 溶質と溶媒 2) 水の性質 1) 酸化還元反応 2) 生体における酸化還元
II. 有機化学の基礎	1. 有機化合物 2. 有機化合物の反応 3. 糖質 4. 脂質 5. タンパク質	1) 定義 2) イオン結合、共有結合、水素結合 1) 官能基 2) 官能基のはたらき 1) 単糖類 2) 多糖類 1) 油脂 2) リン脂質 3) ステロイド 1) アミノ酸 2) タンパク質 3) 酵素

成績評価の方法：筆記試験 90%、出席 10%

教科書：なし

参考図書：

著者名	タイトル	シリーズ	出版年	出版者	版
Barbara Herlihy 片桐康雄 他監訳	ヒューマンボディ： からだの不思議が わかる解剖生理学		2008	エルゼア・ ジャパン	原著第3版
三輪一智 他	生化学	系統看護学講座;専門基礎分野 人体の構造と機能；2	2014	医学書院	第13版

<講義スケジュール>

1	2016.	9.20	火	16:35~17:45	伊東栄子	物質 原子と分子	大教室
2		9.27	火	15:15~16:25	伊東栄子	酸と塩基 pH	大教室
3		9.27	火	16:35~17:45	伊東栄子	溶液 酸化と還元	大教室
4		10.6	木	16:35~17:45	伊東栄子	有機化合物、エネルギー	大教室
5		10.7	金	9:00~10:10	伊東栄子	糖質①	大教室
6		10.13	木	16:35~17:45	伊東栄子	糖質②	大教室
7		10.14	金	9:00~10:10	伊東栄子	脂質①	大教室
8		10.21	金	12:30~13:40	伊東栄子	脂質②	大教室
9		11.21	月	15:15~16:25	伊東栄子	タンパク質①	大教室
10		11.22	火	9:00~10:10	伊東栄子	タンパク質②	大教室
		12.16	金	9:00~10:10	伊東栄子	試験	中教室、視聴覚室

[人間援助論 I]

科目責任者：守屋治代

科目担当者：守屋治代、菊池昭江、見城道子、
加藤京里、小宮山陽子、林 由佳

目的：

援助（看護）を必要とする他者に対し援助を行うプロセスに必要な基本的な知識・方法・態度について体験を通し理解を深め、さらに援助の本質について探究する。

到達目標：

1. 人間が人間を援助する必然性やその契機を検討する。
2. 人間が他者を援助するときの人間関係のあり方を体験的に検討する。
3. 他者理解の方法を体験的に理解する。
4. 他者理解を前提とする援助（看護）の過程を構造的に理解する。
5. 専門職として他者を援助するときの行為・ふるまい・態度の実際を体験的に理解する。
6. 自己の人間関係のあり方を省察する。

大項目	中項目	小項目
I. 人間の本質と援助の連関	1. 人間はなぜ他者を援助するのか	1) 人間存在の脆弱性、傷つきやすさ 2) 共感性 3) 贈与性
	2. 専門職としての援助の成立	1) 社会的役割としての援助 2) 報酬
II. 対人援助関係の特質	1. ケアとは	1) ケアの概念
	2. 自己に対する他者とは	1) 他者の異質性・不可侵性・尊厳 2) 「我ーそれ」 / 「我ー汝」関係 3) 非対称性
III. 他者理解の方法	1. 他者はどうしたら理解できるか	1) 一体化と対象化 / 共感と観察 2) 表現性 3) コミュニケーションの構造 4) 観察・記録とは
IV. 援助（看護）過程の構造	1. 看護の過程的構造	1) 問題解決過程 2) 人間関係成立発展過程 3) 看護における人間対人間の関係 4) 目的をもって人に伝えること
V. 援助（看護）者としてのコミュニケーション・行為・ふるまい・態度・雰囲気	1. 援助（看護）になりうるための行為・ふるまい	1) 表現する / 表現を受け取る 2) 身体に触れる 3) 手先に心をこめる
	2. コミュニケーションのあり方	1) 基本的な技法 2) 対話と沈黙 3) そこに存在すること
VI. 特殊な状況における援助	1. 援助の特殊なあり方	1) 特殊な状況にある人の理解と援助（特別講義）

成績評価の方法：演習内容及び態度 10% レポート 90%

教科書：

- ①系統看護学講座 基礎分野 人間関係論、医学書院、2015
- ②系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2]基礎看護技術 I、医学書院、2015
- ③時実利彦：人間であること、岩波新書、1970
- ④J.トラベルビー（長谷川浩 藤枝知子訳）：トラベルビー人間対人間の看護、医学書院、1974

⑤ 寺本松野：新装版 看護のなかの死、日本看護協会出版会、2001

参考資料：

著者名	タイトル	シリーズ	出版年	出版者	版
吉田敦彦	プーバー対話論とホリスティック教育：他者・呼びかけ・応答	教育思想双書	2007	勁草書房	
鷺田清一	「聴く」ことの力：臨床哲学試論		1999	TBSブリタニカ	
フロレンス・ナイチンゲル 湯橋ます 他訳	看護覚え書：看護であること・看護でないこと		2011	現代社	改訂第7版
ヴァージニア・ヘンダーソン 湯橋ます 他訳	看護の基本となるもの		2006	日本看護協会出版会	新装版
Hildegard E. Peplau 稲田八重子 他訳	人間関係の看護論		1973	医学書院	
伊勢真一 演出・編	びぐれっと		2002	いせフィルム 他製作	
山崎光祥	子を見るとき、子を看取るとき：沈黙の命に寄り添って	シリーズここで生きる	2014	岩波書店	
朝霧裕	バリアフリーのその先へ!：車いすの3.11	シリーズここで生きる	2014	岩波書店	
横湯園子	魂への旅路：震災から震災へ	シリーズここで生きる	2014	岩波書店	
中澤正夫	死のメンタルヘルス：最期に向けての対話	シリーズここで生きる	2014	岩波書店	
遠藤比呂通	希望への権利：釜ヶ崎で憲法を生きる	シリーズここで生きる	2014	岩波書店	
山田真	水俣から福島へ：公害の経験を共有する	シリーズここで生きる	2014	岩波書店	
姜誠	またがりビトのすすめ：「外国人」をやっていると見えること	シリーズここで生きる	2014	岩波書店	
笠耐	ある昭和の家族：「火宅の人」の母と妹たち	シリーズここで生きる	2014	岩波書店	
最相葉月	れるられる	シリーズここで生きる	2015	岩波書店	
内山節	いのちの場所	シリーズここで生きる	2015	岩波書店	
今井つみ 他編著 山崎由美子 他	1 言語と身体性	岩波講座コミュニケーションの認知科学	2014	岩波書店	
梅田聡 編 梅田聡 他	2 共感	岩波講座コミュニケーションの認知科学	2014	岩波書店	
開一夫 編著 菊水健史 他	3 母性と社会性の起源	岩波講座コミュニケーションの認知科学	2014	岩波書店	
山岸俊男 他編著 巖佐庸 他	4 社会のなかの共存	岩波講座コミュニケーションの認知科学	2014	岩波書店	
片山容一 編 片山容一 他	5 自立と支援	岩波講座コミュニケーションの認知科学	2014	岩波書店	

< 講義スケジュール >

AL: アクティブラーニング

1	2016. 4. 14	木	9:00~10:10	守屋治代 [※] _他	基礎看護学教員紹介・人間の本质と援助の連関	大教室
2	4. 14	木	10:25~11:35	守屋治代	対人援助関係の特質 1	大教室
3	4. 19	火	15:15~16:25	守屋治代	対人援助関係の特質 2 (DVD 視聴)	大教室
4	4. 19	火	16:35~17:45	守屋治代	対人援助関係の特質 3	大教室
5	4. 21	木	15:15~16:25	守屋治代	他者理解の方法 1 AL (課題学修)	大教室図書館
6	4. 21	木	16:35~17:45	守屋治代	他者理解の方法 2 : コミュニケーション	大教室
7	4. 27	水	9:00~10:10	守屋治代	他者理解の方法 3 : 観察①	大教室
8	5. 10	火	9:00~10:10	守屋治代	援助者としての行為・ふるまい 1 A AL (体験学習)	食堂 実習室
9	5. 10	火	10:25~11:35	守屋治代 [※] _他	援助者としての行為・ふるまい 2 A AL (体験学習)	
8	5. 11	水	13:55~15:05	守屋治代	援助者としての行為・ふるまい 1 B AL (体験学習)	
9	5. 11	水	15:15~16:25	守屋治代 [※] _他	援助者としての行為・ふるまい 2 B AL (体験学習)	
10	5. 16	月	9:00~10:10	守屋治代	他者理解の方法 4 : 観察② AL (グループ討議)	大教室
11	6. 7	火	9:00~10:10	守屋治代	コミュニケーションの過程と実際 1 AL (課題学修)	大教室図書館
12	6. 8	水	15:15~16:25	守屋治代	コミュニケーションの過程と実際 2	大教室
13	6. 27	月	12:30~13:40	守屋治代	援助の本質 1 AL (課題学修)	大教室図書館
14	7. 11	月	15:15~16:25	犯罪被害者支援専門員	危機的な状況にある人の理解と援助	大教室
15	7. 13	水	13:55~15:05	守屋治代	援助の本質 2	大教室
16	7. 13	水	15:15~16:25	守屋治代	災害状況における援助	大教室
17	9. 5	月	13:55~15:05	守屋治代	援助(看護)の過程的構造 1	大教室
18	9. 5	月	15:15~16:25	守屋治代	援助(看護)の過程的構造 2	大教室

※ 菊池昭江、見城道子、加藤京里、小宮山陽子、林 由佳

[哲学]（選択科目）

科目責任者：井沼 一

目的

哲学（philosophy）はギリシャ語の philosophia に起源を持ち、「知を愛す」の意である。
 本講義では、＜哲学する＞とはどういうことなのか？から出発し、人間とは何か、人間らしい生き方、人間の尊厳などについて、正義論、自己決定権の考えに触れ、トリアージや尊厳死といった様々な問題を考察し、現代において問われるヒューマニズムに関わる問題について理解する。
 「至誠と愛」の精神を意識しながら進めていきたい。

到達目標

1. 私たちの日常生活や医療という実践的な場を念頭に、＜哲学する＞という知的営みに触れる。
2. 哲学者の考えを参考にして様々な問題を問い直すことができる。
3. 現代医療の抱える様々な問題を扱い、関心を持ち、自身で物事を考え掘り下げる力を養う。

大項目	中項目	小項目
I. 学問としての哲学 科学としての哲学	1. 哲学とは何か 2. 医療において人は自由？ 平等？ 3. 現代において問われる ヒューマニズム	1) イントロダクション-講義の進め方、 内容、評価方法、単位取得、レポート について-哲学とは何か？ 2) 哲学するとは？ 哲学は看護学部生に必要？ 3) 正義論 4) トリアージ 5) 自己決定権 6) 尊厳死 7) 出生前診断 8) 他者理解 9) レポートを書いてみよう 10) 総括と展望 ー臨床哲学の可能性 ホモ・パティエンスー

成績評価の方法：平常点/授業内課題 50%、課題レポート 50%で評価します。

教科書：

教科書は使用せず、講義時にレジユメを配布します。

参考図書：

- 鷺田清一 『「聴く」ことのかー臨床哲学試論ー』 阪急コミュニケーションズ 1999.
 辺見弘監修 『救急・災害現場のトリアージ』 荘道社 2001.
 高橋隆雄 八幡英幸編 『自己決定論のゆくえー哲学・法学・医学の現場からー』 九州大学出版
 会 2008.
 Michael J. Sandel, "Justice: What's the Right Thing to Do?", New York : Farrar,
 Straus and Giroux, 2009 (=鬼澤忍訳『これからの「正義」の話をしよう』早川書房 2010.)

受講上の注意等：

毎回、理解を助け、参考となる映像資料（ドキュメンタリー番組の一部等）を視聴する時間を設ける。
 質問は、授業後の教室およびE-mailにて受けつけます。

<講義スケジュール>

1	2017.	2.3	金	12:30~13:40	井沼 一	イントロダクション	大教室
2		2.3	金	13:55~15:05	井沼 一	哲学とは？哲学は看護学部生に必要？	大教室
3		2.9	木	15:15~16:25	井沼 一	正義論	大教室
4		2.9	木	16:35~17:45	井沼 一	レポートを書いてみよう	大教室
5		2.10	金	12:30~13:40	井沼 一	トリアージ	大教室
6		2.10	金	13:55~15:05	井沼 一	自己決定権	大教室
7		2.17	木	12:30~13:40	井沼 一	尊厳死	大教室
8		2.17	木	13:55~15:05	井沼 一	出生前診断	大教室
9		2.24	金	12:30~13:40	井沼 一	他者理解	大教室
10		2.24	金	13:55~15:05	井沼 一	総括と展望ー臨床哲学の可能性ー	大教室

生活している人間の環境

[生活科学論]（選択科目）

科目責任者：松本佳子

目的

現代の生活問題を、生活者とそれをとりまく環境とを関連づけながら理解することによって、生活そのものを全体的に見つめなおし、よりよい方向性を見つけだそうとする力を身につける。

到達目標

- 1、現在の生活様式を歴史の中に位置づけて説明できる。
- 2、衣・食・住生活に関して、それぞれその現代的問題を列挙できる。
- 3、生活に関する技術について、それらを例示し問題点を説明できる。
- 4、家族の変化と家庭生活の諸問題について説明できる。
- 5、人をとりまく環境について、その問題点について説明できる。
- 6、生活に関する諸問題について、それに対する新たな取り組みを列挙できる。

大項目	中項目	小項目
I. 生活科学とは	1. 生活科学の概念と歴史	1) 生活科学の概念と歴史
II. 生活科学各論	2. 生活科学と暮らし	2) 生活様式の変化 3) 衣生活と現代的課題 4) 食生活と現代的課題 5) 住生活と現代的課題 6) 暮らしと技術 7) 家族と暮らし 8) 生活と福祉 9) 人と環境
III. 生活科学の展開	3. 生活科学の現代的課題と展開	10) 生活を支える新たな活動

成績評価の方法：

出席状況 50%、講義後に課すレポート 50%で評価する。

教科書：

特になし、随時プリントを配布

参考文献：

山本直成・浦上智子・中根芳一 著	生活科学	オーム社	2014
川添登・一番ヶ瀬康子 編著	講座生活学①生活学原論	光生館	1993
「生活する力を育てる」ための研究会 編	人と生活	建帛社	2012

<講義スケジュール>

1	2016.	4.22	金	15:15~16:25	松本佳子	生活科学の概念と歴史	大教室
2		4.22	金	16:35~17:45	松本佳子	生活様式の変化	大教室
3		5.13	金	15:15~16:25	松本佳子	衣生活と現代的課題	大教室
4		5.13	金	16:35~17:45	松本佳子	食生活と現代的課題	大教室
5		6.10	金	15:15~16:25	松本佳子	住生活と現代的課題	大教室
6		6.10	金	16:35~17:45	松本佳子	暮らしと技術	大教室
7		6.17	金	15:15~16:25	松本佳子	家族と暮らし	大教室
8		6.17	金	16:35~17:45	松本佳子	生活と福祉	大教室
9		7.8	金	15:15~16:25	松本佳子	人と環境	大教室
10		7.8	金	16:35~17:45	松本佳子	生活を支える新たな活動	大教室

〔史学〕（選択科目）

科目責任者：藤本頼人

目的

現代とは異なる過去の社会のあり方を学ぶことで視野を広げ、社会についての思考力を高める。イメージや感覚ではなく、事実により過去と現代を考える。

到達目標

1. 日本の中世を切り口に、歴史に対する通念を改め、柔軟で深い思考を身につける。
 - ①現実の中世社会を知る。一般に中世というと、古代の貴族にとってかわった武士の時代と考えられがちだが、現実には、武士はもちろん、貴族(公家)や僧侶、農民、商人など多様な人々が活発に活動を展開したダイナミックな時代である。
 - ②中世においては、現代の人々とは異なる感覚・価値観が通用していた。その一方で、身の回りに当たり前に存在する事柄が、実は中世やそれ以前に由来するものも少なくない。当時の人々のものの考え方に注意を払いながら、その起源をさぐる作業を通して、ものごとの本質を見極めていく見方を養う。
 - ③歴史は後世の人間、特にその時々々の支配者により都合良いようにねじ曲げられることも多い。なぜそのようなことが起るのかを理解し、ねじ曲げられた像を安易に信じないような思考を身につける。
2. 中世の人々の生活、衛生環境や病・死との向き合い方を知り、当時の人々の考え方を知る。
 - ①中世の人々の生活は現在とは比較にならない程厳しい。これは庶民も貴族も変わらない。当時の衛生状態・栄養状態などを通して当時人々の生活を知る。
 - ②厳しい現実のなかで、中世の人々は病や死に対してどのような観念をもっていたのか、具体的な例から理解する。
 - ③中世における医療の担い手と、その具体的活動を検証し、中世の医療のあり方を考える
3. 疾病によっておこる差別について、歴史の側面からアプローチし、差別の防止について考える。
中世のハンセン病患者への差別の実態を知り、近代・現代（明治時代～現在）の差別とどこが共通し、どこが異なるかを考えることで、現代でもみられる疾病への差別に対する医療従事者の責任を考える。

大項目	中項目	小項目
I. 歴史を知ること	1. 歴史を“考える”こと	1) 歴史を“考える”意義 2) 身近な事象の由来を考える
	2. 歴史の“解釈”	1) 中世の一般的イメージと実際 2) 歴史の歪曲について
II. 中世の生活と病・医療・死	1. 人々の生活と病・医療・死	1) 環境と食料事情、都市の衛生問題 2) 文献史料・文学にみる病 3) 絵画史料にみる病 4) 医療に向き合った人々
	2. 中世の疾病と差別	1) 病・死に対する社会の対応 2) 平安・鎌倉時代のハンセン病患者と差別 3) 近現代のハンセン病政策と差別

成績評価の方法

筆記試験(80%)。授業で理解したことを文章化する論述形式。用語などを暗記する必要はない。
出席状況(20%)

教科書

なし。授業でプリントを配布する。

参考図書

授業の中で指示する

＜講義スケジュール＞

1	2017.	1.17	火	12:30～13:40	藤本頼人	I-1.-1)歴史を“考える”意義	大教室
2		1.17	火	13:55～15:05	藤本頼人	I-1.-2)身近な事象の由来を考える	大教室
3		1.17	火	15:15～16:25	藤本頼人	I-2.歴史の“解釈”	大教室
4		2.7	火	12:30～13:40	藤本頼人	II-1.-1)環境と食料事情,都市の衛生問題	大教室
5		2.7	火	13:55～15:05	藤本頼人	II-1.-2)文献史料・文学にみる病	大教室
6		2.7	火	15:15～16:25	藤本頼人	II-1.-3)絵画史料にみる病	大教室
7		2.14	火	12:30～13:40	藤本頼人	II-1.-4)医療と向き合った人々	大教室
8		2.14	火	13:55～15:05	藤本頼人	II-2.-1)病・死に対する社会の対応	大教室
9		2.14	火	15:15～16:25	藤本頼人	II-2.-2)平安・鎌倉時代のハンセン病患者 と差別	大教室
10		2.21	火	12:30～13:40	藤本頼人	II-2.-3)近現代のハンセン病政策と差別	大教室
		2.21	火	13:55～15:05	藤本頼人	試験	中教室・視聴覚室

健康障害と生活の調整

[病態学・概論]

科目責任者：尾崎 恭子

科目担当者：南家由紀、尾崎 恭子

目的

病態学・概論では看護実習や卒後の臨床看護を行う上で必要な主要症候や診断に至るまでの流れ、治療法の概要を学び、2 学年より始まる臨床医学系ごとの病態学・各論に向けての医学的知識と考え方を習得する。

到達目標

1. 内科学・外科学の基本となる主要症状とその病態について理解することができる。
2. 診断に至るまでの基本的な流れについて説明出来る。
3. 解剖学、生理学、生化学の基礎をふまえた上で健康と病気の違い、病気の成り立ちについて説明出来る。
4. 症状とその病態を理解し、症状に対する看護の重要性について理解出来る。
5. 臨床検査の種類や方法・目的の基本的な事項について述べる事が出来る。
6. 治療法の概要・種類について述べる事が出来る。
7. 医学的背景を包括した統合的な考えをもとに、学生自身が考えながら看護を行う姿勢が養われる。

大項目	中項目	小項目
1. 病態学総論	1. 内科学・外科学総論	1) 診察、診察課程
2. 症候学	1. 徴候と症状 (sign and symptom)	1) 発熱 2) 黄疸 3) 貧血、出血傾向 4) 腹痛 5) 便秘、下痢 6) 吐血、下痢 7) 嚥下障害 8) 浮腫 9) チアノーゼ 10) 胸痛 11) 動悸 12) 呼吸困難、喘鳴 13) 呼吸 (リズム) の異常
3. 診断学	1. 患者のみかた・診断学	1) 問診 2) バイタルサイン 3) 身体所見
	2. 一般臨床検査	1) 一般血液検査 (血算) 2) 血液生化学 3) 血清学的検査 4) 尿検査 5) 便、痰検査など
	3. 画像診断	1) レントゲン検査 (単純 XP, 造影検査) 2) エコー 3) CT 4) MRI 5) PET 6) 核医学検査
	4. 組織診断	1) 細胞診 2) 組織診断
	5. 特殊検査	1) 内視鏡検査 2) 臓器別機能検査 3) カテーテル検査 4) 遺伝子検査

大項目	中項目	小項目
4. 治療学	1. 生活指導・食事・栄養療法	1) 生活指導 2) 食事療法 3) 経口栄養 4) 経腸栄養 5) 経静脈栄養（末梢、中心静脈栄養）
	2. 薬物療法	1) 薬物療法の種類 1. 解熱鎮痛薬 2. 抗菌薬 3. 抗癌薬 4. 免疫抑制薬、生物学的製剤など 5. 副腎皮質ステロイド剤 6. 抗精神薬 7. 消化器系、循環器系薬、降圧薬など 2) 投与方法 1. 経口治療薬 2. 注射薬 皮内注射 皮下注射 筋肉内注射 経静脈注射 点滴注射 3. 坐剤 4. 貼付薬 5. 軟膏薬
	3. 外科的治療	1) 周術期全身管理 2) 外科手術 3) 内視鏡的手術 4) カテーテル治療
	4. 放射線治療	1) 外照射 2) 小線源治療,
	5. 輸血	1) 成分輸血、全血輸血 2) 輸血の副作用
	6. 血液浄化療法	1) 腹膜透析 2) 血液透析・血液濾過
	7. 臓器移植	1) 生体移植 2) 献体移植
	8. リハビリテーション・運動療法	
	9. 緩和治療	

成績評価の方法

出席状況 10%、課題レポート 10%、試験 80%により総合的に評価する。

教科書

北村 聖

臨床病態学 総論（第2版）

ニューヴェルヒロカワ 2013

<講義スケジュール>

AL:アクティブラーニング

1	2016.	9.27	火	12:30~13:40	南家由紀	症候学概論、診察方法概論、バイタルサイン、 全身倦怠感、関節痛、リンパ節腫大など	大教室
2		9.27	火	13:55~15:05	南家由紀	頭痛、眩暈、意識障害、運動の異常、感覚の異常、 掻痒感、皮膚の異常など	大教室
3		10.3	月	12:30~13:40	尾崎恭子	ショック、チアノーゼ	大教室
4		10.3	月	13:55~15:05	尾崎恭子	創傷の治癒、感染、炎症、腫瘍、褥瘡	大教室
5		10.11	火	12:30~13:40	南家由紀	胸痛、動悸、嗽、喀痰、呼吸困難、喘鳴	大教室
6		10.11	火	13:55~15:05	南家由紀	AL (課題学習、レポート、DVD)	大教室
7		10.24	月	12:30~13:40	南家由紀	悪心、嘔吐、食欲不振、腹痛、腹部膨満、 下痢、便秘、吐血、下血、黄疸、排便の機序	大教室
8		10.24	月	13:55~15:05	南家由紀	AL (課題学習、レポート、DVD)	大教室
9		11.21	月	12:30~13:40	南家由紀	体液の組成、浮腫、脱水 乏尿、多尿、 肥満とやせ、代謝の異常 (糖、脂質、蛋白質)	大教室
10		11.21	月	13:55~15:05	南家由紀	検体検査、生理機能検査、画像診断、治療学概論	大教室
	2017.	1.12	木	10:25~11:35	尾崎恭子	試験	中教室・視聴覚室

[人間工学]

科目責任者：久宗周二

目的

日々の労働や日常生活を、道具・機械・環境と、人間の形態・行動特性等の相互関係を人間工学的な視点により論ずる。これにより労働や日常生活が、より安全に、より確実に、より快適になるような考え方、改善方法について習得する。

到達目標

1. 生活環境を考える上で必要なアーゴミクス(人間工学)の視点を学ぶ。
2. 実際の生活場面や機器の使われ方を見て、考えを深めていく。
3. 都市や日常の生活環境を考えていく上で、必要なことは何かを考える力をつける。

大項目	中項目	小項目
I. 人間工学概論	1. 人間工学の目的	1) 目的 2) 計測方法
II. 人間工学の基礎	1. 人間の形態	1) 作業域 2) 作業姿勢
	2. 人間の特性	1) 刺激域 2) 夜勤勤務の特性
III. 人間の注意力と人間工学	1. 機器デザインと人間工学	1) 操作性 2) 的確な情報伝達 3) 行動分析
	2. ヒューマンエラー	1) 不注意 2) 緊急時の人間行動 3) 意識の迂回 4) 医療過誤の事例と対策
IV. 人間工学の応用	1. 人間工学チェックリストによる改善	1) 問題点の抽出と改善方法 2) 問題点の抽出と改善の応用実習

成績評価の方法：

レポート 80%、平常点（出席、発言など）20%で評価する。

教科書：

久宗周二

参加型自主改善活動の進め方

創成社

参考文献：

野呂影勇 他

エルゴミクスデザイン

日科技連出版社

大島正光 他

人間工学

浅倉書店

長町三生

快適科学

海文堂出版

山岡俊樹 他

ユーザーインターフェイスの実践

海文堂出版

佐藤方彦	おはなし 生活科学	日本規格協会
村田厚生	人間工学概論	泉文堂
村田厚生	ヒューマンインターフェースの基礎と応用	日本出版サービス
F. ケラーマン	人間工学の指針	〃
加藤象二郎 他	初学者のための生体機能の測り方	〃
鈴木一重 訳	人間工学 そのインパクト	〃
小松原明哲	エンジニアのための人間工学	〃
工業デザイン全書編集委員会	工業デザイン全書 人間工学 上・下	〃
生命工学工業技術研究所 編	人体寸法データ集	日本出版サービス
小原二郎 他	人体を図る	〃
小松原明哲	認知人間工学設計	技報堂出版
安全学研究会 訳	医療事故	ナカニシヤ出版
	患者誤認事故防止に向けて	ミクス
石井トク	医療事故- 看護と法の観点から	医学書院
〃	マンガで分かるナースが防ぐ医療事故	小学館
東京警察病院医療事故防止委員会	医療事故防止のためのガイドライン	篠原出版
渡邊順子	すき・すき・スキルナースの若葉のケアナビ99	学習研究社
産業技術総合研究所	人間計測ハンドブック	朝倉書店
久宗周二	海で働く人の改善活動ガイド	高文堂出版社
久宗周二	船員の健康づくり	高文堂出版社

<講義スケジュール>

1	2016.	9.8	木	13:55~15:05	久宗周二	人間工学の目的	大教室
2		9.8	木	15:15~16:25	久宗周二	人間の形態 1	大教室
3		9.8	木	16:35~17:45	久宗周二	人間の形態 2	大教室
4		9.9	金	9:00~10:10	久宗周二	人間の特性 1	大教室
5		9.9	金	10:25~11:35	久宗周二	人間の特性 2	大教室
6		9.15	木	13:55~15:05	久宗周二	機器のデザインと人間工学	大教室
7		9.15	木	15:15~16:25	久宗周二	ヒューマンエラー 1	大教室
8		9.15	木	16:35~17:45	久宗周二	ヒューマンエラー 2	大教室
9		9.16	金	9:00~10:10	久宗周二	人間工学の応用 1	大教室
10		9.16	金	10:25~11:35	久宗周二	人間工学の応用 2	大教室

働きかけの基本 看護活動

[看護学・概論]

科目責任者：守屋治代

科目担当者：守屋治代、見城道子、加藤京里、小宮山陽子

目的：

「看護学」に関する基盤となる概念・知識を原理的に学習する。特に、看護学の構成要素である「人間」「環境」「健康」「看護」についての概念、概念間の関連性とその変化を理解する。さらに、看護を専門的に実践するための看護の目的論・対象論・方法論の基本的枠組みを理解する。

到達目標：

1. 看護の成立発展過程を人類の歴史的発展過程や人間の生のプロセスから検討する。
2. 人間の生命／生活／人生のあり方と健康・看護の連関を検討する。
3. 人間にとって看護とは何か、その本質・目的を言語化する。
4. 看護を専門的に実践するための方法論（看護過程・継続看護）を検討する。
5. 人間社会全体（様々な価値観・システム・多職種）のなかの看護の位置づけ・使命を考える。
6. 地域社会における人々の暮らしを支える地域医療像をえがく。
7. 自分自身にとって看護を志向することの意義・意味を自覚する。

大項目	中項目	小項目
I. 看護の誕生と成立・発展	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護はどのように成立発展してきたか 2. 看護はどのように学ぶか 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「看護 nursing」の語源から 2) 人類の歴史的発展過程から 3) 人間の生のあり方のなかから 1) 「知る」とはどういうことか 2) 抽象化と具体化 3) 実践とはどういうことか 4) 看護における「技・技術」の位置づけ (→看護技術とは何かは、基礎看護学・各論 I へ)
II. 人間の生命／生活／人生	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多次的存在としての人間 2. 人の一生とは 3. 一日の暮らし方とは 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 生物としての人間／動物としての人間／生活する人間／実存的に生きる人間 はどう違うか 2) 生命（いのち）・生命力をどう理解するか 3) 個体／家族／社会のなかで生きる人間 4) 苦痛や困難と直面する人間 5) 成長発達する人間 6) 一日 24 時間の行動
III. 環境と人間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとって環境とは何か 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 環境の多層性 2) 外部環境・内部環境 3) 人間と環境の相互作用 (→さらに焦点化された内容は基礎看護学・各論 I へ)
IV. 人間の健康／病気／回復・治癒	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康はどのように捉えられるか 2. 病気とはどういう状態か 3. 治癒とはどういうことか 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 連続体としての健康、様々な健康の定義 2) 健康危機状態 3) 看護学的に捉える病気とは 4) 治癒・自然治癒力と社会力 5) 病むとはどういう体験か

大項目	中項目	小項目
V. 看護とは何か	1. 看護の目的とは何か 2. 看護の機能とは何か 3. 看護とケア	ナイチンゲール看護論／ヘンダーソン看護論／ トラベルビー看護論による 1) 他者理解はどのように可能になるか 2) 過程としての看護：問題解決過程と人間関係成立発展過程 3) 看護観の表現としての看護技術 4) 看護の継続性とチームナーシングの理念
VI. 看護の方法	1. 他者をどう理解するか 2. 看護の必要性をどう見出すか 3. 看護観をどう表現するか 4. チームでどう実践するか	1) 社会を構成する要因、社会情勢を動かしている動因（主に政治、経済） 2) 保健医療福祉システム（地域包括ケアシステム）のなかの看護の位置づけ、継続性 3) 健康障害の種類・段階に応じた看護の場 4) 地域医療システムと看護
VII. 社会組織・地域のなかの看護	1. 社会のなかで看護はどのような役割を担うか 2. 一人の人が地域社会のなかでどのように支えられていく必要があるか	1) 専門性の分化と教育・研究 2) 専門性を発揮した実践の実際 3) 医療技術の発展が人間社会にもたらす課題と看護者が守る価値観 4) 人間社会が抱える様々な課題と向き合い、問い続けること
VIII. 看護の発展と使命	1. 看護専門性の分化・高度化によりどのような貢献ができるか 2. 医療技術の発展において看護の役割とは何か 3. 看護はこれからの社会にどのような使命を果たせるか	

成績評価の方法：レポート 30% 筆記試験 70% により行う

教科書：

- ①高橋照子編集：看護学原論 改訂第2版 南江堂 2016
- ②F. ナイチンゲール（湯楨ます他4名訳）：看護覚え書 改訂第7版 現代社 2012
- ③薄井坦子編：ナイチンゲール言葉集 現代社 1995
- ④V. ヘンダーソン（湯楨ます他1名訳）：看護の基本となるもの 新装版 日本看護協会出版会 2009
- ⑤J. トラベルビー（長谷川浩他1名訳）：トラベルビー 人間対人間の看護 医学書院 2008
- ⑥寺本松野：新装版 看護のなかの死 日本看護協会出版会 2001

参考資料：

著者名	タイトル	シリーズ	出版年	出版者	版
日本看護協会 編	看護者の基本的責務：定義・概念/基本法/倫理		2016	日本看護協会出版会	2016年版
フロレス・ナイチンゲール 薄井坦子 他訳者代表	看護小論集：健康とは病気とは看護とは		2003	現代社	
安酸史子 他編	健康危機状況	ナーシング・グラフィック、成人看護学; 2	2013	メディカ出版	第2版
薄井坦子	科学的看護論		2014	日本看護協会出版会	第3版/新装版
薄井坦子	ナースが視る病気：看護のための疾病論		1994	講談社	
薄井坦子	看護学原論 講義		1994	現代社	改訂版
菱沼典子 他編	看護の原理：ケアすることの本質と魅力		2009	ライフサポート社	
厚生労働省 監	厚生労働白書			ぎょうせい	
日本看護協会 編	看護白書		2014	日本看護協会	平成26年版他
大塚晃志郎	「治る力」の再発見：自然治癒力を生む生命の原理		2008	日本教文社	
日本ホリスティック医学協会 編著 藤津良一 監	自然治癒力を高める生き方：決定版：日本ホリスティック医学協会がすすめる		2006	コスモトゥーワン	
柳原和子	1 長期生存患者たちに学ぶ	中公文庫/がん患者学	2004	中央公論新社	
柳原和子	2 専門家との対話・闘病の記録	中公文庫/がん患者学	2004	中央公論新社	
柳原和子	3 がん生還者たち：病から生まれ出づるもの	中公文庫/がん患者学	2004	中央公論新社	
時実利彦	人間であること	岩波新書	1970	岩波書店	

アブラハム・H・マズロー 上田吉一 訳	完全なる人間：魂のめざすもの		1998	誠信書房	第2版
ヴァクトル・E・フランクル 池田香代子 訳	夜と霧		2002	みずず書房	新版
アロン・アントノフスキー 山崎喜比古 他監訳	健康の謎を解く：ストレス対処と健康保持のメカニズム		2001	有信堂高文社	
神谷美恵子	生きがいについて	神谷美恵子コレクション	2004	みずず書房	
小松美彦	自己決定権は幻想である	新書	2004	洋泉社	
小松美彦 他編	いのちの選択：今、考えたい脳死・臓器移植	岩波ブックレット	2010	岩波書店	
福田素生 他著	社会保障・社会福祉	系統看護学講座：専門基礎分野・ 健康支援と社会保障制度；3	2016	医学書院	第17版
北島政樹 編	医療福祉をつなぐ関連職種連携： 講義と実習にもとづく学習のすべて		2013	南江堂	
埼玉県立大学 編	IPWを学ぶ：利用者中心の保健医療福祉連携		2009	中央法規出版	
宇都宮宏子 他編	これからの退院支援・退院調整： ジェネラリストナースがつなぐ外来・病棟・地域		2011	日本看護協会出版会	
京極真	信念対立解明アプローチ入門：チー ム医療・多職種連携の可能性をひらく		2012	中央法規出版	
	認定NPO法人 健康と病いの語り ディペックス・ジャパン公式HP ママ、アメリカへはいつ行くの？ －保奈美ちゃんの心臓移植		1998	テレビ東京放映	
	この子は生きている－長期脳死児と生きる家族		2008	テレビ愛知開局25周年記念番組	

<講義スケジュール>

AL:アクティブラーニング

1	2016.	4.18	月	9:00～10:10	守屋治代	基礎看護学ガイダンス	大教室
2		4.25	月	13:55～15:05	守屋治代	看護の誕生と成立発展	大教室
3		4.25	月	15:15～16:25	守屋治代	人間の生命／生活／人生1	大教室
4		5.9	月	9:00～10:10	守屋治代	人間の生命／生活／人生2	大教室
5		5.17	火	10:25～11:35	加藤京里	環境と人間	大教室
6		5.19	木	9:00～10:10	守屋治代	人間の健康／病気／回復・治癒1	大教室
7		5.19	木	10:25～11:35	守屋治代	人間の健康／病気／回復・治癒2 AL (課題学修)	大教室
8		5.23	月	9:00～10:10	守屋治代	人間の健康／病気／回復・治癒3	大教室
9		5.30	月	9:00～10:10	守屋治代	看護とは何か1	大教室
10		5.30	月	10:25～11:35	守屋治代	看護とは何か2 AL (課題学修)	大教室
11		6.13	月	9:00～10:10	守屋治代	看護とは何か3	大教室
12		7.4	月	13:55～15:05	守屋治代	看護の方法1	大教室
13		7.4	月	15:15～16:25	守屋治代	看護の方法2	大教室
14		7.5	火	13:55～15:05	認定看護師	看護の専門性の実際1	大教室
15		7.5	火	15:15～16:25	認定看護師	看護の専門性の実際2	大教室
16		9.13	火	12:30～13:40	見城道子	社会組織・地域のなかの看護1	大教室
17		9.13	火	13:55～15:05	見城道子	社会組織・地域のなかの看護2	大教室
18		9.13	火	15:15～16:25	掛川市地域 医療推進課	人々の暮らしを支える地域医療 の将来と看護	大教室
19		9.27	火	9:00～10:10	小宮山陽子	医療技術の発展と看護の使命1	大教室
20		9.27	火	10:25～11:35	小宮山陽子	医療技術の発展と看護の使命1 AL (グループ討議)	大教室 図書館
		10.3	月	9:00～10:10	守屋治代	筆記試験	中教室・視聴覚室

[基礎看護学・各論 I (共通基本技術論)]

科目責任者：守屋治代

科目担当者：守屋治代、菊池昭江、見城道子、
加藤京里、小宮山陽子、林由佳

目的

専門技術としての看護技術の特徴を理解した上で、様々な看護に共通する基礎的技術の理論と方法を学び、看護技術の基本を修得する。

到達目標

1. 専門技術としての看護技術の基本的な考え方を説明できる。
2. 看護における安全・安楽の重要性について説明できる。
3. 感染の基本概念について理解し、感染予防の方法を説明できる。
4. バイタルサインのもつ意味を理解し、バイタルサイン測定の方法を説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 看護場面における共通基本技術	1. 看護技術とは	1) 看護技術とは
	2. 安全を守る技術	1) 看護における安全の意義 2) 安全を守るための看護の視点
	3. 安楽にする技術	1) 看護における安楽の意義 2) 安楽にするための看護の視点
	4. 感染予防の技術 I	1) 感染予防のもつ意味 2) 感染予防の方法 I 3) 基本的看護技術の実際 (1) スタンダードプリコーション (2) ガウンテクニック
	5. 感染予防の技術 II	1) 感染予防の方法 II 2) 基本的看護技術の実際 (1) 無菌操作
	6. バイタルサイン測定の技術	1) バイタルサインのもつ意味 2) 基本的看護技術の実際 (1) 呼吸、脈拍、体温、血圧の観察と測定

成績評価の方法：筆記試験 90%、提出物・レポート 10%により行う。

教科書：

茂野香おる他 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院 第 16 版 2015
有田清子他 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院 第 16 版 2013

<講義スケジュール>

AL:アクティブラーニング

1	2016.	4.27	水	15:15~16:25	守屋治代	看護技術とは1	大教室
2		4.28	木	9:00~10:10	守屋治代 ^{他*}	看護技術とは2 (AL)	大教室・看護実習室
3		4.28	木	10:25~11:35	守屋治代 ^{他*}	看護技術とは3 (AL)	大教室・看護実習室
4		5.9	月	15:15~16:25	見城道子	安全を守る技術1	大教室
5		5.12	木	10:25~11:35	見城道子	安楽にする技術1 (AL)	オーキッドホール
6		5.16	月	15:15~16:25	見城道子	感染予防Ⅰ1	大教室
7		5.16	月	16:35~17:45	見城道子	感染予防Ⅰ2	大教室
8		5.19	木	12:30~13:40	見城道子 ^{他*}	感染予防Ⅰ3A (AL)	看護実習室
8		5.19	木	13:55~15:05	見城道子 ^{他*}	感染予防Ⅰ3B (AL)	看護実習室
9		5.23	月	15:15~16:25	見城道子	感染予防Ⅰ4	大教室
10		5.24	火	12:30~13:40	見城道子 ^{他*}	感染予防Ⅰ5A (AL)	看護実習室
10		5.24	火	13:55~15:05	見城道子 ^{他*}	感染予防Ⅰ5B (AL)	看護実習室
11		6.2	木	9:00~10:10	小宮山陽子	バイタルサイン1	大教室
12		6.2	木	10:25~11:35	小宮山陽子	バイタルサイン2	大教室
13		6.6	月	13:55~15:05	小宮山陽子 ^{他*}	バイタルサイン3 (AL)	大教室他
14		6.6	月	15:15~16:25	小宮山陽子 ^{他*}	バイタルサイン4 (AL)	大教室他
15		6.9	木	9:00~10:10	小宮山陽子 ^{他*}	バイタルサイン5A (AL)	看護実習室
16		6.9	木	10:25~11:35	小宮山陽子 ^{他*}	バイタルサイン6A (AL)	看護実習室
15		6.10	金	9:00~10:10	小宮山陽子 ^{他*}	バイタルサイン5B (AL)	看護実習室
16		6.10	金	10:25~11:35	小宮山陽子 ^{他*}	バイタルサイン6B (AL)	看護実習室
17		9.5	月	9:00~10:10	見城道子	感染予防Ⅱ1	大教室
18		9.7	水	13:55~15:05	見城道子 ^{他*}	感染予防Ⅱ2A (AL)	看護実習室
18		9.7	水	15:15~16:25	見城道子 ^{他*}	感染予防Ⅱ2B (AL)	看護実習室
		9.13	火	9:00~10:10	守屋治代 ^{他*}	筆記試験	中教室・視聴覚室

*守屋治代、菊池昭江、見城道子、加藤京里、小宮山陽子、林由佳

〔基礎看護学・各論Ⅱ（生活援助論）〕

科目責任者：守屋治代

科目担当者：守屋治代、菊池昭江、見城道子
加藤京里、小宮山陽子、林由佳

目的

人間の日常生活を健康的に整えるための看護の理論と方法とを学び、看護技術の基本を習得する。

到達目標

1. 健康にとっての生活環境のもつ意味を理解し、生活環境を整えるための基本的な看護方法を説明できる。
2. 健康にとっての活動と休息のもつ意味を理解し、活動と休息を整えるための基本的な看護方法を説明できる。
3. 健康にとっての衣のもつ意味を理解し、衣を整えるための基本的な看護方法を説明できる。
4. 健康にとっての清潔のもつ意味を理解し、清潔を保持するための基本的な看護方法を説明できる。
5. 健康にとっての食のもつ意味を理解し、食を整えるための基本的な看護方法を説明できる。
6. 健康にとっての排泄のもつ意味を理解し、排泄を整えるための基本的な看護方法を説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 日常生活を健康的に整えるための看護方法	1. 生活環境を整える技術	1) 健康にとっての生活環境のもつ意味 2) 生活環境を整えるための看護の視点 3) 基本的看護技術の実際 (1) 環境整備 (2) ベッドメイキング (3) 就床患者のシーツ交換
	2. 活動と休息を整える技術	1) 健康にとっての活動と休息のもつ意味 2) 活動と休息を整えるための看護の視点 3) 基本的看護技術の実際 (1) 体位変換 (2) 移乗・移送 (3) 安楽な体位
	3. 衣を整える技術	1) 健康にとっての衣のもつ意味 2) 衣を整えるための看護の視点 3) 基本的看護技術の実際 (1) 寝衣交換
	4. 清潔を保持する技術	1) 健康にとっての清潔のもつ意味 2) 清潔を保持するための看護の視点 3) 基本的看護技術の実際 (1) 足浴・爪切り (2) 全身清拭 (3) 洗髪 (4) 口腔ケア
	5. 食を整える技術 I	1) 健康にとっての食のもつ意味 2) 食を整えるための看護の視点 3) 基本的看護技術の実際 (1) 食事介助
	6. 排泄を整える技術 I	1) 健康にとっての排泄のもつ意味 2) 排泄を整えるための看護の視点 3) 基本的看護技術の実際 (1) 床上排泄

成績評価の方法：筆記試験 90%、提出物・レポート 10%により行う。

教科書：

茂野香おる他 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院 第16版 2015
 有田清子他 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 第16版 2013

<講義スケジュール>

AL:アクティブラーニング

1	2016.	5.30	月	13:55~15:05	加藤京里	環境を整える技術1		大教室
2		5.30	月	15:15~16:25	加藤京里 ^{他*}	環境を整える技術2	(AL)	看護実習室
3		6.2	木	13:55~15:05	加藤京里 ^{他*}	環境を整える技術3A/B	(AL)	看護実習室
4		6.2	木	15:15~16:25	加藤京里 ^{他*}	環境を整える技術4A/B	(AL)	看護実習室
5		6.6	月	9:00~10:10	見城道子	活動と休息を整える技術1		大教室
6		6.6	月	10:25~11:35	見城道子	活動と休息を整える技術2		大教室
7		6.13	月	12:30~13:40	見城道子 ^{他*}	活動と休息を整える技術3A	(AL)	看護実習室
8		6.13	月	13:55~15:05	見城道子 ^{他*}	活動と休息を整える技術4A	(AL)	看護実習室
9		6.13	月	15:15~16:25	見城道子 ^{他*}	活動と休息を整える技術5A	(AL)	看護実習室
7		6.15	水	13:55~15:05	見城道子 ^{他*}	活動と休息を整える技術3B	(AL)	看護実習室
8		6.15	水	15:15~16:25	見城道子 ^{他*}	活動と休息を整える技術4B	(AL)	看護実習室
9		6.15	水	16:35~17:45	見城道子 ^{他*}	活動と休息を整える技術5B	(AL)	看護実習室
10		6.17	金	10:25~11:35	見城道子	活動と休息を整える技術6		大教室
11		6.27	月	13:55~15:05	加藤京里	環境を整える技術5		大教室
12		6.27	月	15:15~16:25	加藤京里 ^{他*}	環境を整える技術6	(AL)	看護実習室
13		6.28	火	9:00~10:10	加藤京里 ^{他*}	環境を整える技術7A/B	(AL)	看護実習室
14		6.28	火	10:25~11:35	加藤京里 ^{他*}	環境を整える技術8A/B	(AL)	看護実習室
15		6.29	水	13:55~15:05	林 由佳	衣を整える技術1		大教室
16		6.29	水	15:15~16:25	林 由佳	衣を整える技術2	(AL)	看護実習室
17		7.1	金	10:25~11:35	林 由佳 ^{他*}	衣を整える技術3A/B	(AL)	看護実習室
18		8.29	月	13:55~15:05	菊池昭江	清潔を保持する技術1		大教室
19		8.29	月	15:15~16:25	菊池昭江	清潔を保持する技術2		大教室
20		9.5	月	10:25~11:35	菊池昭江 ^{他*}	清潔を保持する技術3A/B	(AL)	看護実習室
21		9.6	火	15:15~16:25	菊池昭江 ^{他*}	清潔を保持する技術4A/B	(AL)	看護実習室
22		9.6	火	16:35~17:45	菊池昭江 ^{他*}	清潔を保持する技術5A/B	(AL)	看護実習室
23		9.12	月	13:55~15:05	菊池昭江	清潔を保持する技術6		大教室
24		9.15	木	9:00~10:10	菊池昭江 ^{他*}	清潔を保持する技術7A	(AL)	看護実習室
24		9.15	木	10:25~11:35	菊池昭江 ^{他*}	清潔を保持する技術7B	(AL)	大教室
25		9.16	金	13:55~15:15	菊池昭江	清潔を保持する技術8		大教室
26		9.16	金	15:15~16:25	菊池昭江	清潔を保持する技術9		大教室
27		9.21	水	13:55~15:05	菊池昭江 ^{他*}	清潔を保持する技術10A	(AL)	看護実習室
28		9.21	水	15:15~16:25	菊池昭江 ^{他*}	清潔を保持する技術11A	(AL)	看護実習室
27		9.26	月	12:30~13:40	菊池昭江 ^{他*}	清潔を保持する技術10B	(AL)	看護実習室
28		9.26	月	13:55~15:05	菊池昭江 ^{他*}	清潔を保持する技術11B	(AL)	看護実習室
29		9.30	金	9:00~10:10	林 由佳	食を整える技術Ⅰ1		大教室
30		9.30	金	10:25~11:35	林 由佳	食を整える技術Ⅰ2		大教室
31		10.4	火	9:00~10:10	林 由佳 ^{他*}	食を整える技術Ⅰ3A/B	(AL)	看護実習室
32		10.4	火	10:25~11:35	林 由佳 ^{他*}	食を整える技術Ⅰ4A/B	(AL)	看護実習室
33		10.6	木	12:30~13:40	加藤京里	排泄を整える技術Ⅰ1		大教室
34		10.6	木	13:55~15:05	加藤京里	排泄を整える技術Ⅰ2		大教室

基礎看護学・各論Ⅱ(生活援助論)

35	10.6	木	15:15~16:25	加藤京里 _他 *	排泄を整える技術Ⅰ 3 (AL)	看護実習室
36	10.13	木	9:00~10:10	加藤京里 _他 *	排泄を整える技術Ⅰ 4A (AL)	看護実習室
36	10.13	木	10:25~11:35	加藤京里 _他 *	排泄を整える技術Ⅰ 4B (AL)	看護実習室
	10.24	月	9:00~10:10	守屋治代 _他 *	筆記試験	中教室・視聴覚室

* 守屋治代、菊池昭江、見城道子、加藤京里、小宮山陽子、林 由佳

[基礎看護学・各論Ⅲ(診療に伴う援助論)]

科目責任者：守屋治代

科目担当者：守屋治代、菊池昭江、見城道子
加藤京里、小宮山陽子、林由佳

目的

検査、治療を受ける状況を看護の立場から理解し、回復を助け、治療効果が得られるような検査、治療に伴う看護の方法と看護技術の基本を修得する。

到達目標

1. 健康にとって呼吸・循環・体温のもつ意味を理解し、呼吸・循環・体温を整える基本的看護方法を説明できる。
2. 診療における看護の役割について理解し、基本的看護方法を説明できる。
3. 食に関する障害について理解し、基本的看護方法を説明できる。
4. 排泄に関する障害について理解し、基本的看護方法を説明できる。
5. 看護用具の保守点検の基本的考え方を説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 診療に伴う看護方法	1. 呼吸・循環・体温を整える技術	1)健康にとって呼吸・循環・体温がもつ意味 2)呼吸・循環・体温を整えるための看護の視点 3)基本的看護技術の実際 (1)罨法 (2)吸引
	2. 検査・治療時の技術Ⅰ	1)診療過程と看護 2)検査に伴う基本的看護 3)検査における基本的看護技術の実際 (1)採血
	3. 検査・治療時の技術Ⅱ	1)治療に伴う基本的看護 2)治療における基本的看護技術の実際 (1)坐薬挿入 (2)注射法
	4. 食を整える技術Ⅱ	1)経口摂取が困難な場合の看護
	5. 排泄を整える技術Ⅱ	1)自然排泄が困難な場合の看護 2)基本的看護技術の実際 (1)浣腸 (2)導尿

評価方法：筆記試験 90%、提出物・レポート 10%

教科書：

茂野香おる他 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 第16版 2015
有田清子他 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 第16版 2013

<講義スケジュール>

AL:アクティブラーニング

1	2016.	10.21	金	09:00~10:10	小宮山陽子	呼吸・循環・体温 1	大教室
2		10.21	金	10:25~11:35	小宮山陽子	呼吸・循環・体温 2	大教室
3		10.27	木	09:00~10:10	小宮山陽子 _{他*}	呼吸・循環・体温 3A (AL)	看護実習室
3		10.27	木	10:25~11:35	小宮山陽子 _{他*}	呼吸・循環・体温 3B (AL)	看護実習室
4	2017.	1.13	金	12:30~13:40	菊池昭江	検査・治療 I 1	大教室
5		1.13	金	13:55~15:05	菊池昭江	検査・治療 I 2	大教室
6		1.16	月	12:30~13:40	菊池昭江 _{他*}	検査・治療 I 3A (AL)	看護実習室
7		1.16	月	13:55~15:05	菊池昭江 _{他*}	検査・治療 I 4A (AL)	看護実習室
6		1.17	火	09:00~10:10	菊池昭江 _{他*}	検査・治療 I 3B (AL)	看護実習室
7		1.17	火	10:25~11:35	菊池昭江 _{他*}	検査・治療 I 4B (AL)	看護実習室
8		1.27	金	12:30~13:40	菊池昭江	検査・治療 II 1	大教室
9		1.27	金	13:55~15:05	菊池昭江	検査・治療 II 2	大教室
10		1.30	月	12:30~13:40	菊池昭江 _{他*}	検査・治療 II 3A (AL)	看護実習室
11		1.30	月	13:55~15:05	菊池昭江 _{他*}	検査・治療 II 4A (AL)	看護実習室
10		1.31	火	12:30~13:40	菊池昭江 _{他*}	検査・治療 II 3B (AL)	看護実習室
11		1.31	火	13:55~15:05	菊池昭江 _{他*}	検査・治療 II 4B (AL)	看護実習室
12		2.2	木	10:25~11:35	菊池昭江	検査・治療 II 5	大教室
13		2.6	月	12:30~13:40	林 由佳	食を整える II 1	大教室
14		2.6	月	13:55~15:05	林 由佳	食を整える II 2	大教室
15		2.9	木	12:30~13:40	加藤京里	排泄を整える II 1	大教室
16		2.9	木	13:55~15:05	加藤京里	排泄を整える II 2	大教室
17		2.13	月	12:30~13:40	加藤京里 _{他*}	排泄を整える II 3A (AL)	看護実習室
17		2.13	月	13:55~15:05	加藤京里 _{他*}	排泄を整える II 3B (AL)	看護実習室
18		2.15	水	12:30~13:40	加藤京里 _{他*}	排泄を整える II 4A (AL)	看護実習室
18		2.15	水	13:55~15:05	加藤京里 _{他*}	排泄を整える II 4B (AL)	看護実習室
—		2.20	月	10:25~11:35	守屋治代 _{他*}	筆記試験	中教室・視聴覚室
		2.22	水	10:25~11:35	守屋治代 _{他*}	看護用具の保守点検	看護実習室

*守屋治代、菊池昭江、見城道子、加藤京里、小宮山陽子、林由佳

[基礎看護学・各論Ⅳ（看護過程論）]

科目責任者：守屋治代

科目担当者：守屋治代、菊池昭江、見城道子
加藤京里、小宮山陽子、林 由佳

目的

1. 看護学の理論に基づき、看護実践のための方法『看護過程展開の技術』を修得する。
2. 個別な対象に、より適切な援助となるよう看護するための方法を理解し、さらに事例を学習素材として事例展開の実際を演習する。

到達目標

1. 看護過程の概念について、以下の側面から理解する。
 - ・人間関係成立発展および問題解決過程の両側面の統合として
 - ・一つの看護成立場面（狭義）および一定期間に渡る看護過程（広義）として
2. 看護過程展開の局面について事例を通して理解を深め、一連のプロセスを展開する。
3. グループメンバー間で発展的な意見交換ができる。

大項目	中項目	小項目
I. 看護過程の基本的な成り立ちと構造	1. 看護過程の構造と展開の道筋	1) 人間関係過程と問題解決過程が統合された看護過程の構造と展開の道筋 2) 実際の事例展開を通じた理解 3) 狭義・広義の看護過程
II. 看護過程展開の道筋	1. 看護過程展開の実際	1) 看護過程展開の5つの局面 ①出会いと全体像への接近 ②人間関係の展開と看護の必要性の明確化 ③看護ケア計画の立案 ④人間関係の深まりと看護ケア実践 ⑤看護ケアの最終評価 2) 事例による看護過程展開の実際
III. 看護過程展開能力の自己評価	1. 自己の看護過程展開のふりかえり	1) 基礎看護学実習Ⅱにおける看護過程展開の自己評価 2) グループ（チーム）における自己のあり方の自己評価 3) 自己の看護実践者としての課題・目標・将来像

教科書：

- ①J.トラベルヴィー（長谷川浩、藤枝知子訳）：人間対人間の看護 医学書院 2008
- ②寺本松野：看護のなかの死、日本看護協会出版会 2001

成績評価の方法：演習内容 20%、提出物 80%により行う

参考文献：

著者名	タイトル	シリーズ	出版年	出版者	版
茂野香おる 著者代表	基礎看護技術Ⅰ	系統看護学講座； 専門分野；1. 基礎看護学；2	2015	医学書院	第16版
フロレンス・ナイチンゲール 薄井垣子 他訳者代表	看護小論集： 健康とは病気とは看護とは		2003	現代社	
ヴァージニア・ヘンダーソン 湯楨ます 他訳	看護の基本となるもの		2006	日本看護協会出版会	新装版

薄井坦子	何がなぜ看護の情報なのか	1992	日本看護協会出版会	第3版 (新装版)
薄井坦子	科学的看護論	2014	日本看護協会出版会	

< 講義スケジュール >

AL: アクティブラーニング

1	2016.	9.12	月	9:00~10:10	守屋治代	看護過程の構造と道筋 1	大教室
2		9.12	月	10:25~11:35	守屋治代	看護過程の構造と道筋 2	大教室
3		9.14	水	13:55~15:05	守屋治代	事例による看護過程展開の実際 1 : 全体像の把握 AL (課題学修)	図書館
4		9.14	水	15:15~16:25	守屋治代	事例による看護過程展開の実際 2 : 全体像の把握 AL (グループ討議)	図書館
5		9.23	金	10:25~11:35	守屋治代	事例による看護過程展開の実際 3 : 全体像の把握	大教室
6		9.28	水	13:55~15:05	守屋治代	事例による看護過程展開の実際 4 : 看護の必要性の分析 AL (グループ討議)	図書館
7		9.28	水	15:15~16:25	守屋治代	事例による看護過程展開の実際 5 : 看護の必要性の分析	大教室
8		10.5	水	15:15~16:25	守屋治代	事例による看護過程展開の実際 6 : 看護の必要性の明確化 AL (グループ討議)	図書館
9		10.5	水	16:35~17:45	守屋治代	事例による看護過程展開の実際 7 : 看護の必要性の明確化	大教室
10		10.12	水	15:15~16:25	守屋治代他*	事例による看護過程展開の実際 8 : 看護計画の立案 AL (グループ討議)	図書館
11		10.12	水	16:35~17:45	守屋治代他*	事例による看護過程展開の実際 9 : 看護計画の立案 AL (グループ討議)	図書館
12		10.18	火	15:15~16:25	守屋治代他*	事例による看護過程展開の実際 10 : 看護計画の立案 AL (グループ討議)	図書館 他
13		10.20	木	12:30~13:40	守屋治代他*	事例による看護過程展開の実際 11 : 看護ケア計画の実施 AL (グループ実践演習)	看護実習室
14		10.20	木	13:55~15:05	守屋治代他*	事例による看護過程展開の実際 12 : 看護ケア計画の実施 AL (グループ実践演習)	看護実習室
15		10.20	木	15:15~16:25	守屋治代他*	事例による看護過程展開の実際 13 : 看護ケア計画の評価 AL (グループ実践演習・討議)	看護実習室 図書館 大教室
16		10.27	木	15:15~16:25	守屋治代	事例による看護過程展開の実際 14 : 看護の評価	大教室
17	2017.	2.16	木	9:00~10:10	守屋治代	看護過程展開能力の自己評価 1 AL (課題学修)	大教室
18		2.16	木	10:25~11:35	守屋治代	看護過程展開能力の自己評価 2 AL (課題学修)	大教室

* 菊池昭江、見城道子、加藤京里、小宮山陽子、林 由佳

[基礎看護学実習 I]

科目責任者：守屋治代

科目担当者：守屋治代、加藤京里、見城道子、小宮山陽子

目的

人間の生活と生活援助を必要とする人への関わり方について、臨地実習を通して体験的に理解を深める。

到達目標

1. 乳幼児および高齢者の日常生活の観察を通し、成長・健康を維持促進するための基本的ニーズの実際を説明できる。
2. 乳幼児および高齢者の成長・健康を維持促進するための発達段階に応じた関わり方について、実際を捉えて考察できる。

大項目	中項目	小項目
I. 人間の生活の理解	1. 生活援助を必要とする人の基本的ニーズの理解	1) 乳幼児および高齢者と共に過ごしながらか、生活の様子を観察する。 2) 成長・健康を維持促進するための基本的ニーズの観点から、乳幼児および高齢者の生活の様子を整理・記録する。
II. 生活援助を必要とする人への関わり方の理解	1. 発達段階に応じた関わり方の理解	1) 乳幼児および高齢者に対して、施設ではどのようなことを大切にしているのか具体的に引き上げ、乳幼児および高齢者にとっての援助の意味を考察する。 2) 自分が関わった場面を具体的に引き上げ、そこで展開した人間関係について考察する。

実習方法：乳幼児施設、および、老人施設で実習を行う。(基礎看護学実習 I 実習要項を参照のこと)

実習評価：実習記録物、および、出席状況を含めた実習内容・態度により行う。

実習記録物 (60%)、実習内容・態度 (40%)

参考図書：

著者名	タイトル	シリーズ	出版年	出版者	版
Joyce Travelbee 長谷川浩 他訳	人間対人間の看護		1974	医学書院	
フロレンス・ ナイチンゲール 湯植ます 他訳	看護覚え書： 看護であること・看護でないこと		2011	現代社	改訳 第7版
ヴァージニア・ ヘンダーソン 湯植ます 他訳	看護の基本となるもの		2006	日本看護協会 出版会	新装版

参考映像資料：

著者名	タイトル	シリーズ	出版年	出版者	版
山崎定人 監督	1. 幼児の全面発達を求めて	さくらんぼ坊や		共同映画	他製作
山崎定人 監督	2. 模倣と自立	さくらんぼ坊や		共同映画	他製作
山崎定人 監督	3. 言葉と自我	さくらんぼ坊や		共同映画	他製作
山崎定人 監督	4. 4才と仲間	さくらんぼ坊や		共同映画	他製作

基礎看護学実習 I

山崎定人 監督	5. 5才と仲間	さくらんぼ坊や	共同映画 他製作
山崎定人 監督	6. 自治と創造	さくらんぼ坊や	共同映画 他製作
大橋喜美子 原案監修	vol. 1 0歳児	健康・保健シリーズ； 乳幼児の発達と保育： こころとからだを育てるあ そびの環境	2011 医学映像教育セ ンター制作著作
大橋喜美子 原案監修	vol. 2 1歳児・2歳児	健康・保健シリーズ； 乳幼児の発達と保育： こころとからだを育てるあ そびの環境	2011 医学映像教育セ ンター制作著作
大橋喜美子 原案監修	vol. 3 3歳児・4歳児・5歳児	健康・保健シリーズ； 乳幼児の発達と保育： こころとからだを育てるあ そびの環境	2011 医学映像教育セ ンター制作著作
神長美津子 他解説・監修	第1巻 ①(3歳児前半)よりどころを求めて ②(3歳児後半)やりたいでも、できない	3年間の保育記録	2004 岩波映像 制作著作
神長美津子 他解説・監修	第2巻 ③(4歳児)先生とともに ④(5歳児)育ちあい学びあう生活のなかで	3年間の保育記録	2004 岩波映像 制作著作
堀内ふき 監修	vol. 1 感覚・運動・神経系	看護教育シリーズ； 目で見える老年看護学； 高齢者の生理機能；1	2007 医学映像教育 センター 第2版
堀内ふき 監修	vol. 2 消化・腎・排泄系	看護教育シリーズ； 目で見える老年看護学； 高齢者の生理機能；2	2007 医学映像教育セ ンター制作著作 第2版
堀内ふき 監修	vol. 3 循環・呼吸系	看護教育シリーズ； 目で見える老年看護学； 高齢者の生理機能；3	2007 医学映像教育セ ンター制作著作 第2版
清水裕子 原案監修	vol. 2 高齢者との対話：対話が弾むための態度	看護教育シリーズ； 看護のための対話学習	2010 医学映像教育セ ンター制作著作
橋本創一 監修	第3巻 高齢者の施設	特別支援学校・福祉施設 見学ツアー	2013 アローウィン 制作・販売

<実習スケジュール>

2016.	4. 28	木	15：15～16：25	全体オリエンテーション①
	5. 18	水	15：15～16：25	全体オリエンテーション②
	6. 1	水	13：55～16：25	施設別オリエンテーション
	6. 20	月	9：00～17：00	A：幼稚園・保育園／B：老人施設
	6. 21	火	9：00～17：00	A：幼稚園・保育園／B：老人施設
	6. 23	木	9：00～17：00	A：老人施設／B：幼稚園・保育園
	6. 24	金	9：00～17：00	A：老人施設／B：幼稚園・保育園
	6. 27	月	9：00～11：35	学内実習

[基礎看護学実習Ⅱ]

科目責任者：守屋治代

科目担当者：守屋治代、菊池昭江、見城道子、
加藤京里、小宮山陽子、林由佳

目的

入院という特殊な生活過程にある人に対して、より健康的な日常生活への意図的な援助を行い、看護過程展開の基本的能力を修得する。臨地実習を通して、形成されつつある各自の看護観を認識する契機とする。

到達目標

- 1) 日常生活の場としての病院・病棟の概要を説明できる。
- 2) 個別な患者のより健康的な日常生活へ向けた看護過程展開が説明できる。
- 3) 相手とのよりよい人間関係の成立・発展について説明できる。
- 4) 医療チームメンバーのなかで、看護者の果たす役割・機能について説明できる。
- 5) 保健医療チームの一員としての責任と誠意ある行動がとれる。

大項目	中項目	小項目
I. 看護が行われる場の理解	1. 日常生活の場としての病院・病棟の理解	1) 病院の地域の中での役割 2) 病院組織の中の看護部の役割 3) 病棟の設備・構造
II. 看護過程の展開	1. 個別な患者のより健康的な日常生活へ向けた看護過程展開の理解 2. 人間関係成立・発展過程の理解	1) その人との出会いと全体像への接近 2) 人間関係の展開と看護の必要性の明確化 3) その人への看護ケア計画の立案 4) 人間関係の深まりと看護ケアの実践 5) その人への人間的・専門的責任としての看護ケアの最終評価
III. 専門職業人としてのあり方の理解	1. チーム医療のなかで、看護に求められている役割・機能の理解	1) 医療チームメンバーのなかで、看護者の果たす役割・機能・責任 2) 自分の言動が周囲（入院患者、医療チームメンバー、学生など）に及ぼす影響 3) 自分の行動に関する報告・連絡・相談

実習方法

総合病院にて実習を行う（基礎看護学実習Ⅱ実習要項を参照のこと）

実習評価

実習記録物・レポート 60%、実習内容および態度 40%により行う。

基礎看護学実習Ⅱ

事前学習（全体）

2016.	9.29	木	9:00～10:10	全体オリエンテーション	大教室ほか
	10.3	月	15:15～16:25	教員別オリエンテーション	大教室ほか
	10.11	火	9:00～11:35 15:15～16:25	事前学習（心構え・福祉用具）	大教室ほか
	10.25	火	9:00～11:35	病院・病棟オリエンテーション	各病院
	10.25	火	12:30～17:45	学内実習①（課題学習）	演習室ほか
	10.31	月	9:00～15:05	学内実習②（技術演習）	看護実習室ほか

見学実習

2016.	10.28	金	9:00～17:00	A班病院実習（見学実習）	各病院
	11.1	火	9:00～17:00	B班病院実習（見学実習）	各病院
	11.4	金	9:00～17:00	C班病院実習（見学実習）	各病院

受け持ち実習 A班:

2016.	11.7	月	9:00～17:00	病院実習	各病院
	11.8	火	9:00～17:00	病院実習	各病院
	11.9	水	9:00～17:00	病院実習	各病院
	11.10	木	9:00～17:00	病院実習	各病院
	11.11	金	9:00～17:00	病院実習	各病院

受け持ち実習 B班:

2016.	11.14	月	9:00～17:00	病院実習	各病院
	11.15	火	9:00～17:00	病院実習	各病院
	11.16	水	9:00～17:00	病院実習	各病院
	11.17	木	9:00～17:00	病院実習	各病院
	11.18	金	9:00～17:00	病院実習	各病院

受け持ち実習 C班:

2016.	11.28	月	9:00～17:00	病院実習	各病院
	11.29	火	9:00～17:00	病院実習	各病院
	11.30	水	9:00～17:00	病院実習	各病院
	12.1	木	9:00～17:00	病院実習	各病院
	12.2	金	9:00～17:00	病院実習	各病院

事後学習（全体）

2016.	12.8	木	9:00～13:40	事後学習①（記録指導）	演習室ほか
	12.13	火	12:30～15:05	事後学習②（まとめ）	図書館ほか
2017.	1.23	月	12:30～16:25	事後学習③（個別指導）	演習室ほか

人間性を育む

[フィットネスの理論と実技]

科目責任者：田熊さやか

目的

現代人にとって運動は欠かせないものである。そこで、健康や生活と運動・スポーツとの関係、運動を実践するにあたっての理論及び方法を最近のスポーツ情勢に触れながら、運動能力を高めることを目的とする。

到達目標

1. 健康の定義について説明できる。
2. 身体活動の意義及び基礎理論について説明できる。
3. 運動・スポーツが身体に及ぼす影響について説明できる。
4. 各種目の運動効果の違いについて説明できる。
5. 各種目の基本技能及びルールについて説明できる。
6. 自分の健康の維持及び増進に運動・スポーツが応用できる。

大項目	中項目	小項目
I. 健康・スポーツ科学(講義)	1. 健康と身体 2. 身体活動と生活	1) 健康とは 2) 体組成 1) 運動・スポーツとは 2) 生活との関わり
II. スポーツ① レクリエーションスポーツ (バレーボール・ソフトボ ール・バドミントン)	1. バレーボール 2. ソフトボール 3. バドミントン 4. ゲーム	1) オーバーハンドパス・アンダーハンドパス 2) 各ポジションの役割の把握 1) キャッチング・スローイング 2) バッティング 1) ラケットワーク 2) フットワーク 1) グループコミュニケーション 2) ルールの確認
III. スポーツ② 生涯スポーツ (硬式テニス・ダンス)	1. 基本技能 2. ゲーム 3. ダンス	1) ボール慣れ 2) フォアハンド・バックハンド 1) 戦略 2) ルール確認 1) 身体表現に取り組む 2) グループ創作を通じた身体表現を学ぶ
IV. スポーツ③ 各種の球技スポーツとウォ ーキング (卓球, ドッチボール, ウ ォーキング)	1. 基本技能 2. ゲーム	1) 各種のスポーツに慣れる 2) 基本的技能を習得する 1) 戦略 2) ルールの確認

フィットネスの理論と実技

評価方法：

- ・ 年間を通しての出席および授業態度を中心に評価する。また、長期休暇や各種目最終日、まとめ等の際にレポート課題を求める。このレポートも評価の対象とする。
- ・ 授業の性質上、欠席及び遅刻に関しては厳しく対処する。遅刻は3回で1回の欠席とする。
- ・ 基本的に全出席とする。また、授業回数の80%以上の出席が単位認定の最低条件となる。
- ・ その他の細かい内容については授業時に随時説明する。

教科書：

なし。必要であればプリント配布を行う。

参考図書：

小澤治夫, 西端泉 最新フィットネス基礎理論 日本フィットネス協会
 勝田茂 入門運動生理学 杏林書院

<講義スケジュール>

1	2016.	4.20	水	10:25~11:35	田熊さやか	健康・スポーツ科学(講義)①	大教室
2		4.20	水	12:30~13:40	田熊さやか	健康・スポーツ科学(講義)②	大教室
3		4.27	水	10:25~11:35	田熊さやか	健康・スポーツ科学(講義)③	大教室
4		4.27	水	12:30~13:40	田熊さやか	健康・スポーツ科学(講義)④	大教室
5		5.11	水	10:25~11:35	田熊さやか	ウォーキング B	オーキッドホール
		5.11	水	12:30~13:40	田熊さやか	ウォーキング A	オーキッドホール
6		5.18	水	10:25~11:35	田熊さやか	ドッチボール B	オーキッドホール
		5.18	水	12:30~13:40	田熊さやか	ドッチボール A	オーキッドホール
7		5.25	水	10:25~11:35	田熊さやか	バレーボール B	オーキッドホール
		5.25	水	12:30~13:40	田熊さやか	バレーボール A	オーキッドホール
8		6.1	水	10:25~11:35	田熊さやか	バレーボール B	オーキッドホール
		6.1	水	12:30~13:40	田熊さやか	バレーボール A	オーキッドホール
9		6.8	水	10:25~11:35	田熊さやか	バレーボール B	オーキッドホール
		6.8	水	12:30~13:40	田熊さやか	バレーボール A	オーキッドホール
10		6.15	水	10:25~11:35	田熊さやか	バレーボール B	オーキッドホール
		6.15	水	12:30~13:40	田熊さやか	バレーボール A	オーキッドホール
11		6.22	水	10:25~11:35	田熊さやか	バレーボール A	オーキッドホール
		6.22	水	12:30~13:40	田熊さやか	バレーボール B	オーキッドホール
12		6.29	水	10:25~11:35	田熊さやか	ソフトボール A	野球場
		6.29	水	12:30~13:40	田熊さやか	ソフトボール B	野球場
13		7.6	水	10:25~11:35	田熊さやか	ソフトボール A	野球場
		7.6	水	12:30~13:40	田熊さやか	ソフトボール B	野球場
14		7.13	水	10:25~11:35	田熊さやか	ストレッチ及び中間振り返り A	オーキッドホール
		7.13	水	12:30~13:40	田熊さやか	ストレッチ及び中間振り返り B	オーキッドホール
15		9.7	水	10:25~11:35	田熊さやか	テニス A	テニスコート
		9.7	水	12:30~13:40	田熊さやか	テニス B	テニスコート
16		9.14	水	10:25~11:35	田熊さやか	テニス A	テニスコート
		9.14	水	12:30~13:40	田熊さやか	テニス B	テニスコート
17		9.21	水	10:25~11:35	田熊さやか	テニス A	テニスコート
		9.21	水	12:30~13:40	田熊さやか	テニス B	テニスコート
18		9.28	水	10:25~11:35	田熊さやか	テニス A	テニスコート
		9.28	水	12:30~13:40	田熊さやか	テニス B	テニスコート
19		10.5	水	12:30~13:40	田熊さやか	テニス A	テニスコート
		10.5	水	13:55~15:05	田熊さやか	テニス B	テニスコート
20		10.12	水	12:30~13:40	田熊さやか	ダンス A	オーキッドホール
		10.12	水	13:55~15:05	田熊さやか	ダンス B	オーキッドホール

<講義スケジュール>

21		10.19	水	12:30~13:40	田熊さやか	バドミントン・ダンスA	オーキッドホール
		10.19	水	13:55~15:05	田熊さやか	バドミントン・ダンスB	オーキッドホール
22		10.26	水	9:00~10:10	田熊さやか	バドミントン・ダンスB	オーキッドホール
		10.26	水	10:25~11:35	田熊さやか	バドミントン・ダンスA	オーキッドホール
23		11.2	水	12:30~13:40	田熊さやか	バドミントン・ダンスA	オーキッドホール
		11.2	水	13:55~15:05	田熊さやか	バドミントン・ダンスB	オーキッドホール
24		12.7	水	12:30~13:40	田熊さやか	バドミントン・ダンスA	オーキッドホール
		12.7	水	13:55~15:05	田熊さやか	バドミントン・ダンスB	オーキッドホール
25		12.14	水	12:30~13:40	田熊さやか	ダンス発表鑑賞会A	オーキッドホール
		12.14	水	13:55~15:05	田熊さやか	ダンス発表鑑賞会B	オーキッドホール
26	2017.	1.11	水	12:30~13:40	田熊さやか	各種スポーツA	オーキッドホール
		1.11	水	13:55~15:05	田熊さやか	各種スポーツB	オーキッドホール
27		1.18	水	12:30~13:40	田熊さやか	各種スポーツA	オーキッドホール
		1.18	水	13:55~15:05	田熊さやか	各種スポーツB	オーキッドホール
28		1.25	水	12:30~13:40	田熊さやか	まとめA	オーキッドホール
		1.25	水	13:55~15:05	田熊さやか	まとめB	オーキッドホール

[英語 I -1A : チャレンジ・クラス]

科目責任者 : 設楽 靖子

科目担当者 : 設楽 靖子

【目的】

英語 I - 1Aは、英語能力を磨きたいという学習意欲の高い学生を対象にしている。Alverno College や Hawaii Pacific University よりの交換学生を迎えた時の交流や、それらの大学への短期研修の時に、積極的に英語でコミュニケーションが図れるようになるための英語力を養う。さらに、大学院への進学、海外留学、海外での就職なども念頭に入れ、英語 4 技能 (Speaking, Listening, Reading, Writing) の総合的能力養成を目指す。

【到達目標】

1. さまざまな場面における簡単な日常英会話ができるようになる。
2. 自分や日本のことを紹介する英語のスピーチができる。
3. 物語の情景、登場人物の心境、などを深く読み取れるようになる。
4. パワーポイントを利用した英語によるプレゼンテーション能力を養成する。
5. 基本的な会話、簡単な説明を英語で聞きとれるようになる。(TOEIC のリスニング自習)

大項目	中項目	小項目
I.スピーキング	1. 英会話の基本表現を身につける	1) 様々な話題に関する会話表現を練習する 自己紹介、趣味、仕事、経験、パーティ 2) 会話によく使用される文法の基礎を復習する
	2. 会話を楽しむ	1) 友人と実際に英語で練習する
	3. 会話に自信を持つ	1) 何度も繰り返し練習する 2) 決まった表現が反射的に出てくるまで練習する。
	4. スピーチ・プレゼンテーション	1) 自分や家族、故郷について話す 2) 大東での生活や日本について話す 3) アメリカ文化について発表する 4) パワーポイントの使い方に慣れる
II. リスニング	1. リスニング・ストラテジーの取得	1) 英語特有のリズム、発音のルールに慣れる 2) TOEIC にチャレンジすることによって、リスニングの向上をはかる
	2. 情報を聞き取る	
III. リーディング	1. ストーリーを読み込む	1) 物語の意味を把握する 2) 内容の背景、登場人物の心理状態を理解する
IV. ライティング	1. オーラル・プレゼンテーションのシナリオを書く	1) 物語の内容を自分の英文で書く 2) 調べた情報を英文で書く

成績評価の方法 :

TOEIC 小テスト 50%、実技テスト 20%、Reading テスト 20%、提出物 10%

教科書 :

仲谷 都 & John Pak 著 *Speaking in Public* プレゼンテーションのための基礎英語 成美堂 2008塚田幸光 著 *Strike Up the TOEIC Test Listening* 解法のコツを学ぶ TOEIC テストリスニング演習

金星堂 2015

Lucy Maud Montgomery, *Anne of Green Gables* Oxford University Press (Retold 版)

その他の資料は、適宜配布する

<講義スケジュール>

1	2016.	4. 14	木	12:30~13:40	設楽靖子	オリエンテーション	大教室
2		4. 14	木	13:55~15:05	設楽靖子	クラス分けテスト/映画鑑賞	情報実習室
3		4. 28	木	12:30~13:40	設楽靖子	教科書 Unit 1 Introduction	大教室
4		4. 28	木	13:55~15:05	設楽靖子	国際交流準備	情報実習室
5		5. 12	木	12:30~13:40	設楽靖子	国際交流準備	情報実習室
6		5. 12	木	13:55~15:05	設楽靖子	国際交流準備	情報実習室
7		5. 19	木	15:15~16:25	設楽靖子	国際交流準備 (予行練習:合同)	大教室
8		5. 19	木	16:35~17:45	設楽靖子	国際交流準備 (予行練習:合同)	図書館
9		5. 26	木	12:30~13:40	設楽靖子	国際交流 (合同)	大教室
10		5. 26	木	13:55~15:05	設楽靖子	国際交流 (合同)	図書館
11		5. 26	木	15:15~16:25	設楽靖子	国際交流 (合同)	大教室
12		5. 26	木	16:35~17:45	設楽靖子	国際交流 (合同)	情報実習室
13		6. 9	木	12:30~13:40	設楽靖子	Anne, Chapter 1	大教室
14		6. 9	木	13:55~15:05	設楽靖子	Unit 2 Talking about Hobbies	情報実習室
15		6. 30	木	12:30~13:40	設楽靖子	会話テスト	演習室
16		6. 30	木	13:55~15:05	設楽靖子	Unit 3 Talking about People	大教室
17		7. 14	木	12:30~13:40	設楽靖子	Anne, Chapter 2	大教室
18		7. 14	木	13:55~15:05	設楽靖子	TOEIC Listening Drill	情報実習室
19		9. 29	木	13:55~15:05	設楽靖子	Summer Vacation プレゼン	大教室
20		9. 29	木	15:15~16:25	設楽靖子	Anne, Chapter 3	情報実習室
21		10. 13	木	12:30~13:40	設楽靖子	TOEIC Listening テスト①	情報実習室
22		10. 13	木	13:55~15:05	設楽靖子	ハワイ研修帰国報告プレゼン	大教室
23		10. 27	木	12:30~13:40	設楽靖子	Unit 4 Talking about Places	情報実習室
24		10. 27	木	13:55~15:05	設楽靖子	Anne, Chapter 4	演習室
25		11. 24	木	12:30~13:40	設楽靖子	Unit 5 Telling Stories Anne, Chapters 5 & 6	演習室
26		11. 24	木	13:55~15:05	設楽靖子	Reading テスト	大教室
27		11. 24	木	15:15~16:25	設楽靖子	プレゼン準備	情報実習室
28		12. 15	木	12:30~13:40	設楽靖子	TOEIC Listening Drill TOEIC Listening テスト②	情報実習室
29		12. 15	木	13:55~15:05	設楽靖子	Final Presentation Final Presentation	情報実習室

[英語 I -1 : B, C]

科目責任者：設楽 靖子

科目担当者：宮原 葉、森 真由子

【目的】

自主学習の習慣をつけ、将来必要とされる英語の基盤を身につける。使える英語を念頭に、読む、書く、聞く、話す、の4技能の向上を目指す。5月に本学を訪問する Hawaii Pacific University の学生との交流、3・4年生で行われるハワイ短期留学などを念頭に入れ、スピーキングとリスニング力向上を図る。“Anne of Green Gables”を読みながら、物語を楽しむ経験を積む。TOEIC のリスニングのテキストを自習しながら聴解力の基礎を養う。

【到達目標】

1. 簡単な日常英会話ができる。
2. 簡単な英語の説明を理解できる。
3. 英語で簡単な発表ができる。
4. 簡単な物語を辞書を引かずに理解できる。

大項目	中項目	小項目
I. スピーキング	1. 英会話の基本表現を身につける	1) 様々な話題に関する会話表現を練習する 自己紹介、趣味、仕事、経験、日常生活 2) 会話によく使用される文法の基礎を復習する
	2. 会話を楽しむ	1) 友人と実際に英語で練習する 2) 何度も繰り返し練習する
	3. スピーチ・プレゼンテーション	1) 自分や家族について話す 2) ロールプレイ 3) 大勢の前で発表する
II. リスニング	1. リスニング・ストラテジーの取得	1) 英語特有のリズム、発音のルールに慣れる 2) TOEIC にチャレンジすることによって、リスニングの向上をはかる
III. リーディング	1. ストーリーを読み込む	1) 物語の意味を把握する
IV. ライティング	1. オーラル・プレゼンテーションのシナリオを書く	1) 調べた情報を英文で書く

成績評価の方法：

TOEIC 50%, 実技テスト 20%, reading テスト 20%、提出物 10%

教科書：

仲谷 都 & John Pak 著 Speaking in Public プレゼンテーションのための基礎英語 成美堂 2008

塚田幸光 著 STRIKE UP THE TOEIC TEST LISTENING 解法のコツを学ぶ TOEIC テストリスニング演習

金星堂 2015

Lucy Maud Montgomery, Anne of Green Gables Oxford University Press

その他の資料は、適宜配布する

<講義スケジュール>

1	2016.	4. 14	木	12:30~13:40	宮原・森	オリエンテーション	大教室
2		4. 14	木	13:55~15:05	宮原・森	クラス分けテスト、映画鑑賞	大教室
3		4. 28	木	12:30~13:40	B宮原C森	Unit 1 Introduction	B:視聴覚室 C:中教室
4		4. 28	木	13:55~15:05	B宮原C森	国際交流準備	B:視聴覚室 C:中教室
5		5. 12	木	12:30~13:40	B宮原C森	国際交流準備	B:視聴覚室 C:中教室
6		5. 12	木	13:55~15:05	B宮原C森	国際交流準備	B:視聴覚室 C:中教室
7		5. 19	木	15:15~16:25	B宮原C森	国際交流準備 (予行演習:合同)	大教室
8		5. 19	木	16:35~17:45	B宮原C森	国際交流準備 (予行演習:合同)	図書館
9		5. 26	木	12:30~13:40	B宮原C森	国際交流(合同)	大教室
10		5. 26	木	13:55~15:05	B宮原C森	国際交流(合同)	図書館
11		5. 26	木	15:15~16:25	B宮原C森	国際交流(合同)	B:視聴覚室 C:中教室
12		5. 26	木	16:35~17:45	B宮原C森	国際交流(合同)	B:視聴覚室 C:中教室
13		6. 9	木	12:30~13:40	B宮原C森	Unit 2 Talking about Hobbies	B:視聴覚室 C:中教室
14		6. 9	木	13:55~15:05	B宮原C森	1. A surprise for Cuthbert	B:視聴覚室 C:中教室
15		6. 30	木	12:30~13:40	B宮原C森	Unit 2 Talking about hobbies	B:視聴覚室 C:中教室
16		6. 30	木	13:55~15:05	B宮原C森	1. A surprise for Cuthbert	B:視聴覚室 C:中教室
17		7. 14	木	12:30~13:40	B宮原C森	会話テスト/映画鑑賞	B, C:演習室
18		7. 14	木	13:55~15:05	B宮原C森	会話テスト/映画鑑賞	B, C 大教室
19		9. 29	木	13:55~15:05	B宮原C森	Report on Summer	大教室
20		9. 29	木	15:15~16:25	B宮原C森	Report on Summer	大教室
21		10. 13	木	12:30~13:40	B宮原C森	TOEIC Listening テスト①	B, C:大教室
22		10. 13	木	13:55~15:05	B宮原C森	ハワイ研修帰国報告プレゼン テーション	大教室
23		10. 27	木	12:30~13:40	B宮原C森	Unit 3 Talking about people	B:視聴覚室 C:中教室
24		10. 27	木	13:55~15:05	B宮原C森	映画鑑賞/プレゼン準備	大教室
25		11. 24	木	12:30~13:40	B宮原C森	リーディングテスト	B:視聴覚室
26		11. 24	木	13:55~15:05	B宮原C森	会話テスト/プレゼン準備	C:中教室
27		11. 24	木	15:15~16:25	B宮原C森	会話テスト/プレゼン準備	B, C:演習室
28		12. 15	木	12:30~13:40	B宮原C森	TOIEC Listening テスト②	B:視聴覚室 C:中教室
29		12. 15	木	13:55~15:05	B宮原C森	Final presentation	B:視聴覚室 C:中教室

[ドイツ語 I] (選択科目)

科目責任者：大藪 正彦

目的

読む・書く・聞く・話すという 4 技能のバランスに配慮して、ドイツ語の基礎的運用能力を身につけることが目的です。また、英語以外の外国語を学ぶことで、文化の多元的理解を目指します。

到達目標

1. ドイツ語技能検定試験（独検）4 級程度のドイツ語を理解し、適切に運用することができる。（知識・技能）
2. 現代ドイツ語圏文化を理解することができる。（知識）
3. 英語以外の外国語を学ぶことで、日本語・日本文化をより客観的に見る視点を獲得し、多くの文化が共生する地球に生きている自覚と責任を持つことができる。（態度）
4. 大学生として新たな外国語を学ぶことで、これまでの学習方法や学習観を自ら振り返って客観化でき、それらを主体的・能動的に転換することができる。（態度・技能）
5. 医療分野で使用されるドイツ語関連の語彙を理解することができる。（知識）

大項目	中項目	小項目
I. ドイツ語文法・表現	1. 動詞	1) 動詞の人称変化 2) 再帰動詞 3) 分離動詞 4) 話法の助動詞 5) 過去形・現在完了形 6) 受動態 7) 接続法
	2. 名詞・冠詞	1) 名詞の性・数・格 2) 冠詞類
	3. 形容詞, ほか	1) 形容詞の格変化・比較変化 2) 前置詞・接続詞 3) 関係文, ほか
II. ドイツ語圏文化	1. ドイツ文化	1) ドイツの食文化 2) ドイツの歴史と宗教 3) ドイツ人の余暇・休暇 4) ドイツの手工業・農業 5) ドイツの教育制度 6) ドイツの経済と産業 7) ドイツの音楽・文学, ほか
	2. ヨーロッパ文化	1) ヨーロッパの地形 2) ヨーロッパの気候 3) ヨーロッパの歴史と宗教 4) ヨーロッパの言語 5) ドイツの周辺国, ほか

成績評価の方法：

1. 試験 50% (2回実施します)
2. 平常点 50% (小テストの結果に授業への参加状況を加味して評価します)

教科書：

大藪正彦『総合学習・異文化理解のドイツ語』朝日出版社。(2,500円+税)

参考図書：

独和辞典は必ず毎回持参してください。特に指定はしませんので各自で準備をお願いします(紙の辞書でも電子辞書でも結構です。ただし無料アプリは現状では質が低いため不可とします)。例えば次のようなものがあります。初回の授業でも紹介します。

『アクセス独和辞典 第3版』三修社。約7万3500語、学習独和辞典(¥4,100+税)

『新キャンパス独和辞典』郁文堂。約2万3000語、初学者用独和辞典(¥3,000+税)

<講義スケジュール>

1	2016.	4.19	火	9:00~10:10	大藪 正彦	授業のオリエンテーション A	中教室
		4.19	火	10:25~11:35	大藪 正彦	授業のオリエンテーション B	中教室
2		4.26	火	9:00~10:10	大藪 正彦	つづりの読み方と発音 A	中教室
		4.26	火	10:25~11:35	大藪 正彦	つづりの読み方と発音 B	中教室
3		5.11	水	9:00~10:10	大藪 正彦	第1課: ダイアログ, 文法 B	中教室
		5.11	水	10:25~11:35	大藪 正彦	第1課: ダイアログ, 文法 A	中教室
4		5.18	水	9:00~10:10	大藪 正彦	第1課: 練習, 補足 B	中教室
		5.18	水	10:25~11:35	大藪 正彦	第1課: 練習, 補足 A	中教室
5		5.25	水	9:00~10:10	大藪 正彦	第2課: ダイアログ, 文法 B	中教室
		5.25	水	10:25~11:35	大藪 正彦	第2課: ダイアログ, 文法 A	中教室
6		6.1	水	9:00~10:10	大藪 正彦	第2課: 練習, 補足 B	中教室
		6.1	水	10:25~11:35	大藪 正彦	第2課: 練習, 補足 A	中教室
7		6.8	水	9:00~10:10	大藪 正彦	第3課: ダイアログ, 文法 B	中教室
		6.8	水	10:25~11:35	大藪 正彦	第3課: ダイアログ, 文法 A	中教室
8		6.15	水	9:00~10:10	大藪 正彦	第3課: 練習, 補足 B	中教室
		6.15	水	10:25~11:35	大藪 正彦	第3課: 練習, 補足 A	中教室
9		6.22	水	9:00~10:10	大藪 正彦	第4課: ダイアログ, 文法 A	中教室
		6.22	水	10:25~11:35	大藪 正彦	第4課: ダイアログ, 文法 B	中教室
10		6.29	水	9:00~10:10	大藪 正彦	第4課: 練習, 補足 A	中教室
		6.29	水	10:25~11:35	大藪 正彦	第4課: 練習, 補足 B	中教室
11		7.6	水	9:00~10:10	大藪 正彦	第5課: ダイアログ, 文法 A	中教室
		7.6	水	10:25~11:35	大藪 正彦	第5課: ダイアログ, 文法 B	中教室
12		7.13	水	9:00~10:10	大藪 正彦	第5課: 練習, 補足 A	中教室
		7.13	水	10:25~11:35	大藪 正彦	第5課: 練習, 補足 B	中教室
13		8.31	水	9:00~10:10	大藪 正彦	第6課: ダイアログ, 文法 A	中教室
		8.31	水	10:25~11:35	大藪 正彦	第6課: ダイアログ, 文法 B	中教室
14		9.7	水	9:00~10:10	大藪 正彦	第6課: 練習, 補足 A	中教室
		9.7	水	10:25~11:35	大藪 正彦	第6課: 練習, 補足 B	中教室
15		9.14	水	9:00~10:10	大藪 正彦	まとめと試験 (1) A	中教室
		9.14	水	10:25~11:35	大藪 正彦	まとめと試験 (1) B	中教室
16		9.21	水	9:00~10:10	大藪 正彦	第7課: ダイアログ, 文法 A	中教室
		9.21	水	10:25~11:35	大藪 正彦	第7課: ダイアログ, 文法 B	中教室
17		9.28	水	9:00~10:10	大藪 正彦	第7課: 練習, 補足 A	中教室
		9.28	水	10:25~11:35	大藪 正彦	第7課: 練習, 補足 B	中教室
18		10.5	水	9:00~10:10	大藪 正彦	第8課: ダイアログ, 文法 A	中教室
		10.5	水	10:25~11:35	大藪 正彦	第8課: ダイアログ, 文法 B	中教室
19		10.12	水	9:00~10:10	大藪 正彦	第8課: 練習, 補足 A	中教室
		10.12	水	10:25~11:35	大藪 正彦	第8課: 練習, 補足 B	中教室
20		10.19	水	9:00~10:10	大藪 正彦	第9課: ダイアログ, 文法 A	中教室
		10.19	水	10:25~11:35	大藪 正彦	第9課: ダイアログ, 文法 B	中教室

ドイツ語 I (選)

<講義スケジュール>

21		10.26	水	9:00~10:10	大菌 正彦	第9課：練習，補足 A	中教室
		10.26	水	10:35~11:35	大菌 正彦	第9課：練習，補足 B	中教室
22		11.2	水	9:00~10:10	大菌 正彦	第10課：ダイアログ，文法 A	中教室
		11.2	水	10:25~11:35	大菌 正彦	第10課：ダイアログ，文法 B	中教室
23		12.7	水	9:00~10:10	大菌 正彦	第10課：練習，補足 A	中教室
		12.7	水	10:25~11:35	大菌 正彦	第10課：練習，補足 B	中教室
24		12.14	水	9:00~10:10	大菌 正彦	第11課：ダイアログ，文法 A	中教室
		12.14	水	10:25~11:35	大菌 正彦	第11課：ダイアログ，文法 B	中教室
25	2017.	1.11	水	9:00~10:10	大菌 正彦	第11課：練習，補足 A	中教室
		1.11	水	10:25~11:35	大菌 正彦	第11課：練習，補足 B	中教室
26		1.18	水	9:00~10:10	大菌 正彦	第12課：ダイアログ，文法 A	中教室
		1.18	水	10:25~11:35	大菌 正彦	第12課：ダイアログ，文法 B	中教室
27		1.25	水	9:00~10:10	大菌 正彦	第12課：練習，補足 A	中教室
		1.25	水	10:25~11:35	大菌 正彦	第12課：練習，補足 B	中教室
28		2.1	水	9:00~10:10	大菌 正彦	文法補足 A	中教室
		2.1	水	10:25~11:35	大菌 正彦	文法補足 B	中教室
29		2.8	水	9:00~10:10	大菌 正彦	まとめと試験 (2) A	中教室
		2.8	水	10:25~11:35	大菌 正彦	まとめと試験 (2) B	中教室

【日本語学】（選択科目）

科目責任者：今井 亨

【目的】

「話す・書く・聞く・読む・考える」言語活動に総合的に取り組むことによって、これからの看護学部専門課程・看護職において自らで言語運用能力を確認し高めていけるようにする。

【到達目標】

- ① 目的・関係・媒体の特性および自分のコミュニケーション・スタイルに応じたコミュニケーションを工夫できる。
- ② 看護学生としての基本的文章力の技能を理解し活用できる。
- ③ 文書にもとづいた口頭での報告・発表および質疑応答を効果的に行える。
- ④ 学び・気づき・変容を省察し表現できる。

大項目	中項目	小項目
I. コミュニケーションの理解	1) 目的・状況・相手・媒体等に応じたコミュニケーション	1) 敬意・誠意・熱意の伝達 2) 相手本位・配慮の表現 3) 適切かつ的確な質疑応答
II. 大学生としての基本的表現力	1) レポートの表現技術	1) 適切な語句を選んで用いる 2) 簡潔でねじれの無い文を書く 3) 事実と意見を書き分ける 4) 具体的に書く 5) 参考文献・他者の発言を引用する 6) 図表にまとめ説明する 7) 箇条書きを適切に用いる 8) パラグラフを活用して書く 9) 結果と考察を区別して書く 10) 根拠（理由・証拠）を明確にして書く 11) 目的・読み手・字数に応じて書く 12) 重要なことが際立つ構成で書く 13) 全体の構成・章立てを考える 14) 必要な情報を収集・選別する 15) 提出前に推敲する
	2) 口頭による表現・プレゼンテーション技術	1) レジюмеを作成する 2) 話し方を工夫する 3) 時間配分に注意する 4) スライドを活用する 5) グループで協力する
III. 大学生としての基本的文章理解力	1) 要約技術	1) 語彙力を増強する 2) 文章の論理を整理する 3) キーワードを捉える

成績評価の方法：

授業への取り組み（発表・質疑応答）40%、課題レポート60%

教科書：

前原澄子・遠藤俊子監修、看護学生のための よくわかる大学での学び方、金芳堂、2014

日本語学（選）

参考図書：

A. レポート・発表関係

井上千以子	思考を鍛えるレポート・論文作成法	慶應義塾大学出版会	2013
石井一成	ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方	ナツメ社	2011
松本茂・河野哲也	大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法	玉川大学出版部	2007
高谷修	看護学生のためのレポート・論文の書き方 —正しく学ぼう「書く基本」「文章の組み立て」—	金芳堂	2001

B. コミュニケーション関係

杉本なおみ	改訂医療者のためのコミュニケーション入門	精神看護出版	2013
杉本なおみ	医療コミュニケーション・ハンドブック	中央法規	2008
尾崎喜光	しくみで学ぶ！正しい敬語	ぎょうせい	2009
渡辺由佳	スラスラ話せる 敬語入門	かんき出版	2006

<講義スケジュール>

1	2016.	4. 15	金	15:15~16:25	今井 亨	スタディ・スキルの重要性	大教室
2		4. 15	金	16:35~17:45	今井 亨	自己紹介・スピーチ 1	大教室
3		5. 6	金	15:15~16:25	今井 亨	自己紹介・スピーチ 2	大教室
4		5. 6	金	16:35~17:45	今井 亨	文章の読み方・まとめ方 1	大教室
5		6. 3	金	15:15~16:25	今井 亨	文章の読み方・まとめ方 2	大教室
6		6. 3	金	16:35~17:45	今井 亨	文章の読み方・まとめ方 3	大教室
7		7. 1	金	15:15~16:25	今井 亨	レポートの書き方 1	大教室
8		7. 1	金	16:35~17:45	今井 亨	レポートの書き方 2	大教室
9		9. 23	金	15:15~16:25	今井 亨	プレゼンテーション・スキル 1	大教室
10		9. 23	金	16:35~17:45	今井 亨	プレゼンテーション・スキル 2	大教室
11		10. 7	金	15:15~16:25	今井 亨	ディスカッション・スキル 1	大教室
12		10. 7	金	16:35~17:45	今井 亨	ディスカッション・スキル 2	大教室
13		10. 21	金	15:15~16:25	今井 亨	グループ発表 1-1/2/3	大教室
14		10. 21	金	16:35~17:45	今井 亨	グループ発表 1-4/5/6	大教室
15		11. 25	金	15:15~16:25	今井 亨	グループ発表 1-7/8/9	大教室
16		11. 25	金	16:35~17:45	今井 亨	グループ発表 1-10/11/12	大教室
17		12. 9	金	15:15~16:25	今井 亨	グループ発表 1-13/14/15	大教室
18		12. 9	金	16:35~17:45	今井 亨	グループ発表 1-16/17/18	大教室
19		12. 16	金	15:15~16:25	今井 亨	グループ発表 1-19/20	大教室
20		12. 16	金	16:35~17:45	今井 亨	発表 1 まとめ	大教室
21	2017.	1. 13	金	15:15~16:25	今井 亨	グループ発表 2-1/2/3	大教室
22		1. 13	金	16:35~17:45	今井 亨	グループ発表 2-4/5/6	大教室
23		1. 20	金	15:15~16:25	今井 亨	グループ発表 2-7/8/9	大教室
24		1. 20	金	16:35~17:45	今井 亨	グループ発表 2-10/11/12	大教室
25		1. 27	金	15:15~16:25	今井 亨	グループ発表 2-13/14/15	大教室
26		1. 27	金	16:35~17:45	今井 亨	グループ発表 2-16/17/18	大教室
27		2. 3	金	15:15~16:25	今井 亨	グループ発表 2-19/20	大教室
28		2. 3	金	16:35~17:45	今井 亨	発表 2 まとめ	大教室

[美術]（選択科目）

科目責任者：伊東玲子

目的

現代社会は利益と効率に追われ、人間の本来持っている能力である創造性と感受性が軽視されている。美術を通して医者と患者の間の立場に立つ人の感性を高め、豊かな情操を養い、人間性を豊かにする。

到達目標

1. 無からものを産みだす創造の喜びを体験し、創造的な能力を高める。
2. 観ることによって、鑑賞の能力を伸ばし、感性を高め、美意識を磨く。
3. 人体を描くことで、人間を考え、その美を知る。
4. 自ら表現することで、潜在能力としてある各々の描く可能性を知り、自己を見つめ考える。
5. 美術、芸術、文化に対する理解と愛を深める。

大項目	中項目	小項目
I. 美術とは何か		1) 描かれた「病」 2) 医学と芸術 3) 青春の自画像 4) 現代絵画入門
II. 描く	1. デッサン 2. 着色画 3. 模写	1) 自画像 2) 人物画 3) 静物画 4) 抽象画 5) 古典の模写
III. 観る	1. 芸術鑑賞	1) 日本美術史 2) 現代の美術とデザイン （美術館見学） 3) 映画の中の看護師

成績評価の方法：作品による評価となる。

教科書： なし

参考図書：

山梨俊夫

現代絵画入門

中公新書

日本の絵巻 ・ 鳥獣戯画

中央公論社

橋口幸子

珈琲とエアクレアと詩人 スケッチ・北村太郎

港の人

美術（選）

<講義スケジュール>

1	2016.	4. 19	火	12:30~13:40	伊東玲子	オリエンテーション	中教室
2		4. 19	火	13:55~15:05	伊東玲子	描く日常	中教室
3		5. 10	火	12:30~13:40	伊東玲子	描かれた青春	中教室
4		5. 10	火	13:55~15:05	伊東玲子	描く青春	中教室
5		6. 14	火	12:30~13:40	伊東玲子	夏を描く1	中教室
6		6. 14	火	13:55~15:05	伊東玲子	夏を描く2	中教室
7		6. 14	火	15:15~16:25	伊東玲子	夏を描く3	中教室
8		6. 28	火	12:30~13:40	伊東玲子	ねむの木美術館見学1	ねむの木村
9		6. 28	火	13:55~15:05	伊東玲子	ねむの木美術館見学2	ねむの木村
10		7. 12	火	12:30~13:40	伊東玲子	描く人体1	中教室
11		7. 12	火	13:55~15:05	伊東玲子	描く人体2	中教室
12		9. 6	火	12:30~13:40	伊東玲子	描く風景1	中教室
13		9. 6	火	13:55~15:05	伊東玲子	描く風景2	中教室
14		9. 20	火	12:30~13:40	伊東玲子	日本画を描く1	中教室
15		9. 20	火	13:55~15:05	伊東玲子	日本画を描く2	中教室
16		9. 20	火	15:15~16:25	伊東玲子	日本画を描く3	中教室
17		10. 4	火	12:30~13:40	伊東玲子	鳥獣戯画の模写1	中教室
18		10. 4	火	13:55~15:05	伊東玲子	鳥獣戯画の模写2	中教室
19		10. 18	火	12:30~13:40	伊東玲子	あかりを作る1	中教室
20		10. 18	火	13:55~15:05	伊東玲子	あかりを作る2	中教室
21		11. 22	火	12:30~13:40	伊東玲子	あかりを作る3	中教室
22		11. 22	火	13:55~15:05	伊東玲子	あかりを作る4	中教室
23		12. 6	火	12:30~13:40	伊東玲子	美術鑑賞(資生堂アートハウス、資料館) 1	アートハウス
24		12. 6	火	13:55~15:05	伊東玲子	美術鑑賞(資生堂アートハウス、資料館) 2	アートハウス
25	2017.	1. 10	火	12:30~13:40	伊東玲子	描く心1	中教室
26		1. 10	火	13:55~15:05	伊東玲子	描く心2	中教室
27		1. 24	火	12:30~13:40	伊東玲子	雛絵を描く1	中教室
28		1. 24	火	13:55~15:05	伊東玲子	雛絵を描く2	中教室

〔音楽〕（選択科目）

科目責任者：渡邊由美子

目的

音楽の技術向上に加え、楽しさや心を合わせて演奏する重要性を感じ、仲間と作り上げた作品の成果を発表する喜びを感じながら演奏することができる。

到達目標

1. 正しい音程を身につけることができる。
2. 他のパートを聴き分け、協調することの必要性が理解できる。
3. 多くの曲を確実に暗譜することができる。
4. 気持ちを込めて演奏する必要性を理解することができる。
5. 音楽を通じてコミュニケーションを図ることができる。
6. 施設、病院内コンサートへ参加し、その意義を考えることができる。

大項目	中項目	小項目
I. 音楽に必要な歌唱技術	1. 美しい声	1) 発声 2) 呼吸法 3) 姿勢 4) 音程 5) リズム 6) 言葉
II. 音楽を通しての人間形成	1. 人間性や感性の向上 2. 地域、患者との交流	1) 福祉施設でのコンサート 2) 病院内コンサート

成績評価の方法：

出欠席状態 40%、イベントの参加協力 30%、学習態度 30%

教科書：

女声合唱曲集 クラス用「Fairy Chorus（フェアリーコーラス）」 教育芸術社
寺嶋陸也：女声合唱とピアノのための「ふるさと」ー明治・大正・昭和の唱歌編曲集ー
カワイ出版

参考図書：

石若雅弥：女声合唱とピアノのための「こころの色」 カワイ出版
千原英喜：女声合唱組曲「明日（あした）へ続く道」 カワイ出版
まついえつこ：女声3部合唱永遠のアイドルソング コーラスアルバム 全音楽譜出版社
千原英喜：女声合唱とピアノのための 良寛相聞 全音楽譜出版社
三沢治美：女声合唱のためのヒットメドレー「SORA」 カワイ出版

<講義スケジュール>

1	2016.	4. 15	金	12:30～13:40	渡邊由美子	歌唱技術 1 ソプラノ、メゾ、アルトのパート分け	大教室
2		4. 22	金	12:30～13:40	渡邊由美子	歌唱技術 2 呼吸法・歌唱・発声法 1	オーキッドホール
3		4. 27	水	13:55～15:05	渡邊由美子	歌唱技術 3 呼吸法・歌唱・発声法 2	オーキッドホール
4		5. 6	金	12:30～13:40	渡邊由美子	歌唱技術 4 呼吸法・歌唱・発声法 3	オーキッドホール
5		5. 13	金	12:30～13:40	渡邊由美子	歌唱技術 5 呼吸法・歌唱・発声法 4	オーキッドホール
6		5. 20	金	12:30～13:40	渡邊由美子	歌唱技術 6 呼吸法・歌唱・発声法 5	オーキッドホール
7		5. 25	水	15:15～16:25	渡邊由美子	歌唱技術 7 呼吸法・歌唱・発声法 6	オーキッドホール
8		6. 3	金	12:30～13:40	渡邊由美子	歌唱技術 8 呼吸法・歌唱・発声法 7	オーキッドホール
9		6. 10	金	12:30～13:40	渡邊由美子	歌唱技術 9 呼吸法・歌唱・発声法 8	オーキッドホール
10		6. 17	金	12:30～13:40	渡邊由美子	歌唱技術 10 呼吸法・歌唱・発声法 9	オーキッドホール
11		7. 1	金	12:30～13:40	渡邊由美子	歌唱技術 11 呼吸法・歌唱・発声法 10	オーキッドホール
12		7. 7	木	12:30～13:40	渡邊由美子	歌唱技術 12 呼吸法・歌唱・発声法 11	オーキッドホール
13		7. 15	金	13:55～15:05	渡邊由美子	歌唱技術 13 呼吸法・歌唱・発声法 12	オーキッドホール
14		9. 8	木	10:25～11:35	渡邊由美子	歌唱技術 14 呼吸法・歌唱・発声法 13	オーキッドホール
15		9. 16	金	12:30～13:40	渡邊由美子	歌唱技術 15 呼吸法・歌唱・発声法 14	オーキッドホール
16		9. 23	金	12:30～13:40	渡邊由美子	歌唱技術 16 呼吸法・歌唱・発声法 15	オーキッドホール
17		9. 30	金	12:30～13:40	渡邊由美子	歌唱技術 17 呼吸法・歌唱・発声法 16	オーキッドホール
18		10. 6	木	10:25～11:35	渡邊由美子	歌唱技術 18 呼吸法・歌唱・発声法 17	オーキッドホール
19		10. 14	金	12:30～13:40	渡邊由美子	歌唱技術 19 呼吸法・歌唱・発声法 18	オーキッドホール
20		10. 20	木	10:25～11:35	渡邊由美子	歌唱技術 20 呼吸法・歌唱・発声法 19	オーキッドホール
21		10. 24	月	10:25～11:35	渡邊由美子	歌唱技術 21 呼吸法・歌唱・発声法 20	オーキッドホール
22		11. 2	水	15:15～16:25	渡邊由美子	歌唱技術 22 呼吸法・歌唱・発声法 21	オーキッドホール
23		11. 25	金	12:30～13:40	渡邊由美子	歌唱技術 23 呼吸法・歌唱・発声法 22	オーキッドホール
24		12. 8	木	13:55～15:05	渡邊由美子	歌唱技術 24 呼吸法・歌唱・発声法 23	オーキッドホール
25		12. 16	金	12:30～13:40	渡邊由美子	歌唱技術 25 呼吸法・歌唱・発声法 24	オーキッドホール
26	2017.	1. 12	木	12:30～13:40	渡邊由美子	歌唱技術 26 呼吸法・歌唱・発声法 25	オーキッドホール
27		1. 19	木	12:30～13:40	渡邊由美子	歌唱技術 27 呼吸法・歌唱・発声法 26	オーキッドホール
28		1. 26	木	12:30～13:40	渡邊由美子	歌唱技術 28 呼吸法・歌唱・発声法 27	オーキッドホール

各専門領域への発展

[情報科学演習 I]

科目責任者：神山暢夫

科目担当者：神山暢夫、伊東栄子、山下 桂、石川 愛

【目的】

現在の社会においては、IT は教育、医療を含めて様々な分野で必須のものとなっており、PC などにふれない日はない程となっている。情報科学演習 I では PC を一般の文具と同様に取り扱えるようになる事を目的とする。さらに、医療、看護の分野における情報の保護、管理といった基本的な知識を身につけ、情報を自らの手で利用できるようにする事が目標である。

【到達目標】

1. PC で取り扱う情報の概念を理解する。
2. 情報を保護、管理する能力を身につける。
3. レポート、グラフ、図表の作成を PC で行える能力を身につける。

大項目	中項目	小項目
I. 情報と知識	1. 情報の概念	1) 情報と医療 2) 情報と看護 3) 情報の管理
II. 情報処理の基礎	1. 情報の収集	1) インターネットと検索
	2. 文章による情報処理	1) 日本語変換 2) 文字の修飾、レイアウト 3) 文章構成
	3. データの処理	1) 表の作成 2) 数値の処理と解析 3) グラフ
	4. 情報の統合	1) 図、グラフの作成 2) 図、グラフの処理

成績評価の方法：提出された課題の評価による（100%）

教科書：なし

参考図書：

著者名	タイトル	シリーズ	出版年	出版者	版
下村健一	10代からの情報キャッチボール入門： 使えるメディア・リテラシー		2015	岩波書店	

<講義スケジュール>

AL:アクティブラーニング

1	2016.	4.14	木	15:15~16:25	神山 暢夫	演習の概要、ポータル	大教室
2B		4.19	火	9:00~10:10	神山 暢夫	コンピュータの基本操作	情報実習室
2A	10:25~11:35			伊東 栄子			
3B		4.26	火	9:00~10:10	神山 暢夫	ウェブメール、インターネット	情報実習室
3A	10:25~11:35			伊東 栄子			
4B		5.19	木	12:30~13:40	伊東 栄子	ワープロ:日本語変換と文字入力	情報実習室
4A	13:55~15:05			神山 暢夫			
5B		5.20	金	13:55~15:05	伊東 栄子	ワープロ:文書作成	情報実習室
5A	15:15~16:25			神山 暢夫			
6B		5.25	水	12:30~13:40	伊東 栄子	ワープロ:文書レイアウトと装飾	情報実習室
6A	13:55~15:05			神山 暢夫			
7B		6.3	金	9:00~10:10	伊東 栄子	ワープロ:レポート作成	情報実習室
7A	10:25~11:35			神山 暢夫			
8B		6.8	水	12:30~13:40	伊東 栄子	ワープロ:レポートの保存、提出	情報実習室
8A	13:55~15:05			神山 暢夫			
9B		6.15	水	12:30~13:40	伊東 栄子	ワープロ:AL	情報実習室
9A	13:55~15:05			神山 暢夫			
10B		6.22	水	9:00~10:10	山下 桂	コンピュータを用いた情報収集	情報実習室
10A	12:30~13:40			石川 愛			
11B		6.29	水	9:00~10:10	神山 暢夫	表計算:文字および数値の入力	情報実習室
11A	12:30~13:40			伊東 栄子			
12B		7.6	水	9:00~10:10	神山 暢夫	表計算:データの処理	情報実習室
12A	12:30~13:40			伊東 栄子			
13B		7.13	水	9:00~10:10	神山 暢夫	表計算:数式処理と応用	情報実習室
13A	12:30~13:40			伊東 栄子			
14		8.29	月	12:30~13:40	神山 暢夫	看護情報の管理と倫理	大教室
15B		8.31	水	9:00~10:10	神山 暢夫	表計算:グラフの作成と加工	情報実習室
15A	10:25~11:35			伊東 栄子			
16B		9.7	水	9:00~10:10	神山 暢夫	表計算:図や写真の処理	情報実習室
16A	12:30~13:40			伊東 栄子			
17B		9.14	水	9:00~10:10	神山 暢夫	課題作成1:AL	情報実習室
17A	12:30~13:40			伊東 栄子			
18B		9.21	水	9:00~10:10	神山 暢夫	課題作成2:AL	情報実習室
18A	12:30~13:40			伊東 栄子			

[キャリア発達論 I]

科目責任者：佐藤紀子

科目担当者：佐藤紀子、草柳かほる、多久和善子、山口紀子、守屋治代、
 神山暢夫、見城道子、伊東栄子、松崎英士、加藤京里、
 小宮山陽子、日沼千尋、小川久貴子、清水洋子、長江弘子、
 小泉雅子、小山達也、山本さとみ、鈴木順子、山下 桂、
 石川 愛

【医学部】：鈴木光代、八木淳二、松下 晋、浦瀬香子、足立 綾、
 佐藤 梓、辻野賢治、菰池勇太、清水一彦、岡田みどり

【科目の目的】 キャリアを「生涯を通しての人の生き方」と定義し、看護学を学ぶことを選択した成人として、自己のキャリアを考え続ける基本的態度を身につける。合わせて、看護専門職者を目指すものとして、組織の中で調和しながら変革を推進し職業を継続するための基礎的な知識を学ぶ。

【1年次の目的】 看護学を選択した自己の今までのキャリアを振り返り、学士課程における学びの指標を考え実行する。キャリア発達の基盤となるセルフケア能力やアカデミック・スキルおよびソーシャル・スキルを含めた自己開発能力を培うとともに、組織における個人と集団の行動に関する基礎知識を理解し、学士課程学生同士、医学部学生との交流を通して協働についての態度を養う。

【到達目標】

1. 入学までの自己のキャリアを振り返り、学士課程の特徴やアカデミック・スキルを知り、学びの展望を述べることができる。
2. 地域社会について考え、食のセルフケアの重要性を実践的に理解し、学生生活の充実に向けた課題を述べることができる。
3. 組織における個人と集団の特性を理解し、組織の一員としての自己の在り方を考え、述べるができる。
4. 学士課程の上級生との交流を通して学生生活を知るとともに、協働の基本について実践的に考え、述べるができる。
5. 医学部1年生との交流を通して、医療チームにおける協働の基礎的な考え方について述べるができる。

大項目	中項目	小項目
I. 看護職の生涯発達	1. キャリアと学習	1) キャリアについて 2) 学士課程における学び 3) アカデミック・スキル 4) 学問としての看護学の専門分化と統合
	2. キャリアと生活	1) 地域社会と学生生活 2) 食のセルフケアと実践
II. 組織と個人	1. 個人と集団	3) 医療専門職と健康管理
III. 協働の基礎	1. 学部上級生との交流	1) 個人の行動の基礎 2) 集団行動の基礎
	2. 女性医療者としての自己認識	1) NHRへの参加 2) 次年度NHRの準備 1)看護技術の学習を通じた医学部生との交流 2)テュートリアル形式での医学部生との意見交換 3) 各々の立場や考え方への理解

キャリア発達論 I

成績評価の方法：出席状況 20%、レポート 80%

イベント等での授業外活動を伴う役割を担えば加点

教科書：前原澄子・遠藤俊子(2014). 看護学生のためのよくわかる大学での学び方. 金芳堂

参考図書：

著者名	タイトル	シリーズ	出版年	出版者	版
玉川大学 編	大学生生活ナビ		2011	玉川大学出版部	第2版
田中共子 編	よくわかる学びの技法	やわらかアカデミズム・「わかる」シリーズ	2009	ミネルヴァ書房	第2版
世界思想社編集部 編	大学生学びのハンドブック：勉強法がよくわかる!		2015	世界思想社	3訂版

その他は、授業時に紹介。

<講義スケジュール>

1	2016.	4.20	水	13:55~15:05	佐藤、草柳 多久和、 山口、伊東 加藤、小宮山	ガイダンス キャリアについて プログラムオリエンテーション	大教室
2				15:15~16:25			
3				16:35~17:45			
4		4.21	木	9:00~10:10	守屋・神山	学士課程における学び	大教室
5		4.22	金	10:25~11:35	山本 _さ 、伊東	食のセルフケアと実践（講義）	大教室
6		4.26	火	12:30~13:40	掛川市職員（守屋）	地域社会と学生生活	大教室
7		4.26	火	15:15~16:25	内田、横田	医療専門職と健康管理①	大教室
8		5.12	木	15:15~16:25	山本 _さ 、鈴木 伊東、多久和	食のセルフケアと実践 （調理実習 A）	栄養実習室
8		5.12	木	16:35~17:45	山本 _さ 、鈴木 伊東、多久和	食のセルフケアと実践 （調理実習 B）	栄養実習室
8		5.13	金	9:00~10:10	山本 _さ 、鈴木 伊東、多久和	食のセルフケアと実践 （調理実習 C）	栄養実習室
9		5.13	金	10:25~11:35	山本 _さ 、鈴木 伊東、多久和	食のセルフケアと実践 （献立作り）	図書館
10		5.20	金	9:00~10:10	山下、石川	アカデミック・スキル：学術情報リ	図書館
11		5.20	金	10:25~11:35	佐藤、草柳	テラシー	大教室
12		5.27	金	12:30~13:40	草柳、佐藤 多久和、山口 小宮山、守屋	NHR(看護学部人間関係論)	河田町キャンパス
13	13:55~15:05						
14	15:15~16:25						
15		7.5	火	10:25~11:35	加藤、見城 小宮山、守屋	看護技術を通じた医学部生との交流(企画書作成)	看護実習室他
16		7.12	火	15:15~16:25	内田、横田	医療専門職と健康管理②	大教室
17		8.29	月	10:25~11:35	加藤、見城 小宮山、守屋	看護技術を通じた医学部生との交流(事前練習)	看護実習室他
18		8.30	火	12:30~13:40	守屋、小宮山 ※1	医学部看護学部協働教育 A 看護技術を通じた医学部生との交流. テュートリアル形式での医学部生との意見交換. 各々の立場や考え方の理解	看護実習室 図書館他
19	13:55~15:05						
20	15:15~16:25						
18		8.31	水	12:30~13:40	加藤、小宮山 ※1	医学部看護学部協働教育 B 看護技術を通じた医学部生との交流. テュートリアル形式での医学部生との意見交換. 各々の立場や考え方の理解	看護実習室 図書館他
19	13:55~15:05						
20	15:15~16:25						

＜講義スケジュール＞

18	9.1	木	12:30～13:40	守屋、見城 ※1	医学部看護学部協働教育 C 看護技術を通じた医学部生との交流・ チュートリアル形式での医学部生との意見交換・ 各々の立場や考え方の理解	看護実習室 図書館他
19			13:55～15:05			
20			15:15～16:25			
18	9.2	金	12:30～13:40	見城、加藤 ※1	医学部看護学部協働教育 D 看護技術を通じた医学部生との交流・ チュートリアル形式での医学部生との意見交換・ 各々の立場や考え方の理解	看護実習室 図書館他
19			13:55～15:05			
20			15:15～16:25			
21	9.9	金	12:30～13:40	佐藤紀子、 草柳かほる	個人の行動の基礎①	大教室
22	9.9	金	13:55～15:05		個人の行動の基礎②	大教室
23	9.30	金	13:55～15:05		集団行動の基礎①	大教室
24	9.30	金	15:15～16:25		集団行動の基礎②	大教室
25	2017. 2.6	月	15:15～16:25	佐藤紀子	学問としての看護学の専門分化と 統合①	大教室
26	2.20	月	12:30～13:40	佐藤、 小川、関森	学問としての看護学の専門分化と 統合②	大教室
27	2.20	月	13:55～15:05	佐藤、 小泉、長江	学問としての看護学の専門分化と 統合③	大教室
28	2.20	月	15:15～16:25	佐藤、清水 小山、守屋	学問としての看護学の専門分化と 統合④	大教室

※1 には、草柳かほる、松寄英二、鈴木光代、八木淳二、松下 晋、浦瀬香子、足立 綾、佐藤 梓、辻野賢治、菰池勇太、清水一彦、岡田みどりが分担して加わる。

*医学部看護学部協働教育予備日：9月10日(土)

〔国際看護コミュニケーションⅠ〕(選択科目) : ハワイ・パシフィック大学

科目責任者 : 設楽 靖子

【目的】

実体験を通して、英語によるコミュニケーション、ハワイ州およびアメリカの医療、歴史、文化、伝統、社会状況を学ぶ

【到達目標】

1. 簡単な会話を英語で行うことができる。
2. ハワイ・パシフィック大学 (HPU) での講義を、できるだけ英語で理解する。
3. 英語で日本を紹介するプレゼンテーションをすることができる。
4. 日米の歴史のつながりについて理解する。

大項目	中項目	小項目
Ⅰ.スピーキング	1. 海外生活のための英会話	1) 飛行場や税関における英会話 2) ホテルにおける英会話 3) 様々な交通手段を利用するときの英会話 4) 買い物をするときの英会話
	2. 英語によるスピーチ	1) 自分や家族、東京女子医科大学について話す 2) 日本の医療について話す 3) 与えられたテーマについて話す
Ⅱ.リスニング	3. 必要な情報を英語で聞き取る	1) 日常生活におけるコミュニケーション 2) アメリカやハワイの歴史 3) アメリカの医療

成績評価の方法 : 日本での事前研修態度 25%、HPU での授業態度 25%、プレゼンテーションの成果 25%
ハワイでの街頭インタビュー(6人以上)の総合 25%

教科書 :

特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する

参考資料 :

必要に応じてプリントを配布する

<講義スケジュール>

1	2016. 6. 16	木	12:30~13:40	設楽靖子	オリエンテーション
2	6. 16	木	13:55~15:05	設楽靖子	自己紹介の練習
3	6. 16	木	15:15~16:25	設楽靖子	インタビューの練習
4	7. 7	木	13:55~15:05	設楽靖子	ハワイの歴史について学ぶ
5	7. 7	木	15:15~16:25	設楽靖子	日系移民・日米戦争について学ぶ
6	7. 7	木	16:35~17:45	設楽靖子	各グループによるプレゼンテーションの練習(1)
7	7. 8	金	09:00~10:10	設楽靖子	各グループによるスピーチの練習(2)
8	7. 8	金	10:25~11:35	設楽靖子	各グループによるスピーチの練習(3)
9	7. 8	金	12:30~13:40	設楽靖子	各グループによるスピーチの練習(4)
10	7. 14	木	15:15~16:25	設楽靖子	各グループによるスピーチの練習(5)
11	7. 14	木	16:35~17:45	設楽靖子	グループ・プレゼンテーションの練習(7)
12	7. 15	金	09:00~10:10	設楽靖子	英語によるグループ・プレゼンテーション
13	7. 15	金	10:25~11:35	設楽靖子	”
14	8. 15	月			出発
15					ハワイ・パシフィック大学にて授業 クイーンズ・メディカルセンター訪問 ハワイについて調査したことの復習 フィールドワーク
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26	8. 23	火			帰国
27	9. 29	木	16:35~17:45	設楽靖子	帰国報告会の準備
28	10. 13	木	15:15~16:25	設楽靖子	帰国報告会

授業担当教員一覧

看護学部第1学年授業担当教員

[専任教員]		[兼任教員]			
人文社会科学系			キャリア発達論 I	教授	内田 啓子
心理学	准教授	松寄 英士		講師	横田 仁子
英語	講師	設楽 靖子	情報科学演習 I	司書	山下 桂
				司書	石川 愛
基礎科学系			[兼任教員]		
生理学	准教授	神山 暢夫	生物としての人間	講師	大楢 弘順
生化学	准教授	伊東 栄子	人間発達論	講師	林 智幸
			哲学	講師	井沼 一
臨床医学系			生活科学論	講師	松本 佳子
外科学	教授	尾崎 恭子	史学	講師	藤本 頼人
	准教授	南家 由紀	人間工学	講師	久宗 周二
			フィットネスの理論と実技	講師	田熊 さやか
看護学系			英語 I - 1	講師	宮原 葉
基礎看護学	教授	守屋 治代		講師	森 真由子
	准教授	菊池 昭江	ドイツ語 I	講師	大藪 正彦
	講師	見城 道子	日本語学	講師	今井 亨
	講師	加藤 京里	美術	講師	伊東 玲子
	助教	小宮山 陽子	音楽	講師	渡邊 由美子
	助教	林 由佳			
成人看護学	准教授	小泉 雅子			
看護職生涯発達学	教授	佐藤 紀子	[医学部・看護学部協働教育 担当教員]	教授	八木 淳二
	助教	多久和 善子	微生物学免疫学	助教	清水 一彦
老年看護学	教授	長江 弘子	解剖学・発生生物学	准講師	蔭池 勇太
小児看護学	教授	日沼 千尋	衛生学公衆衛生学 (一)	教授	岡田 みどり
	准教授	関森 みゆき	化学	助教	佐藤 梓
母性看護学	教授	小川 久貴子		准教授	松下 晋
地域看護学	教授	清水 洋子	生物学	助教	浦瀬 香子
精神看護学	講師	小山 達也	物理学	助教	辻野 賢治
認定看護師教育センター	講師	草柳 かほる	英語学	准教授	鈴木 光代
	助教	山口 紀子	外国文化	講師	足立 綾